

初夏のモデルハウス見学は毎日ハウジングへ！



アクセス便利な国道171号沿い！



「家サイト」なら
モデルハウス見学の予約OK!



※モデルハウスは予約なしいつでも自由に見学できます。
混み合う休日もスムーズにご案内。
ストレスフリーな事前のご予約を！

家サイト 検索 <https://www.e-a-site.com/>

ご来場プレゼント

先着

5名様

折りたたみ傘&
傘カバーギフト
セット

親骨
50cm UVカット率
97%

POINT 1

高槻市唯一の
総合住宅展示場！

信頼の大手ハウスメーカーで、満足・納得の住まいづくりを実現していただけます。

POINT 2

等身大の程よい広さが
ちょうどいい！

リアルなサイズ感の敷地やプランなので、等身大の住まいを実感しながら、家づくりを検討できます。

POINT 3

無料駐車場完備！

モデルハウス近くに駐車場をご用意しております。ご家族お揃いでお越しください！

6棟の リアルサイズ モデルハウス公開中！

ぜひこの機会に、大手一流メーカー6社の
モデルハウスをご見学ください。

旭化成ヘーベルハウス

CUBIC(キューピック)

一条工務店

洋館セゾン 夢の家IV



リアルサイズで実感しやすい総合住宅展示場 毎日ハウジング高槻住宅展示場



お問い合わせ

072-695-8960 〒569-1145 高槻市富田丘町12-3 <開場時間／10:00～18:00>

大阪医科大学 仁泉会ニュース

仁泉会ニュース 第50巻第4号
発行所
〒569-8686 高槻市大学町 2-7
電話
072-682-6166 FAX 072-682-6636
発行者
安藤 嗣彦
発行部数
6,100部
URL
http://www.jinsenkai.net

令和元年度
評議員会および総会が
開催されました



目次

P3 一般社団法人大阪医科大学仁泉会第12代理事長就任にあたり 安藤嗣彦（学20期）

P4 令和元年度 仁泉会総会 開催報告

P16 平成31年度 大阪医科大学入学宣誓式

P20 受章報告

大隈義彦先生（学9期）松原 健先生（学12期）

清金公裕先生（学16期）

お詫びと訂正

学会報告

P21 第37回 日本耳鼻咽喉科免疫アレルギー学会

P22 学23期生（昭和49年卒）同窓会および

ゴルフコンペのお知らせ

支部だより

P23 平成31年「仁泉会姫路（播州）地区総会・

学術講演会」報告

クラス会だより

P24 平成31年4月大阪医科大学三八会の報告

P27 庚申仁久会（昭和55年卒）のご報告

仁泉ひろば

P28 本学の手術件数

がん年齢（バレット食道腺がんの1症例）

P32 平成30年度大阪医科大学バスケットボール部

OB・OG会総会 澤谷公隆（学38期）医学教育

センター専門教授就任をお祝いして

P33 平成11年会 同窓会のお知らせ

P34 新聞切抜 大隈義彦先生（学9期）

P35 新聞切抜 飯田 稔先生（学18期）田中源重先生（学31期）

P36 冊子切抜 熊野宏二先生（学39期）

役員交代

P37 新聞切抜 原 章二先生（学42期）

P38 まんが

会員訃報

P39 編集後記



寺田哲也（学41期）

岡村信介（学23期）

太田 稔（学12期）

本田 学（学29期）

西村 保（学4期）

島田真久（学14期）

宮崎信一郎（学52期）

かぜにポン太ック（学31期）

一般社団法人大阪医科大学 仁泉会第12代理事長就任にあたり 学部20期 安藤嗣彦

この度、令和元年の仁泉会総会後の臨時理事会に於て、第12代の仁泉会理事長に就任いたしました。現会員5600余名、西日本で最も歴史のある医科大学の同窓会長の大役に身も引き締まる思いです。今後、全力を尽して任務を全うする所存でございます。会員の先生の御理解、御協力の程お願いいたします。

私と仁泉会の理事としての付き合いは長く、助手会選出の理事として昭和55年より2期、理事会に出席しました。その後、昭和63年に、神戸の父親の診療所を継承しましたが、平成5年より神戸支部選出の理事として復帰し、現在に至っています。この間、平成25年より副理事長を3期務めました。

所信を表明するにあたり、3期仁泉会理事長を務められた、前仁泉会理事長の河野公一先生に改めて、お礼申し上げます。先生の最大の功績は全国の仁泉会支部組織の再構築に尽力された事です。先生と二人三脚で全国を駆け巡った思い出が、今でも印象に残っています。

全国の私立医科大学の同窓会長は、現役の開業医の場合もあれば、同窓の現職の教授がその任に当たる事もあります。それぞれ一長一短はありますが、大学側と同窓会の間に信頼関係が構築されていれば問題ありません。大阪医大では、仁泉会の理事会には、大学理事長、学長先生を始め、教授会からも数名の先生が理事として出席されています。一方、大学の理事会にも、仁泉会から理事長、副理事長等4名が評議員として出席しています。

仁泉会理事のほとんどの先生は、忙しい診療に加え、地元の医師会の会長、理事、役員の肩書きを持っています。従って、会の運営にあたっては、全員野球の精神で臨む事が重要と考えますので、理事の先生方の御理解、御協力をお願いいたします。

仁泉会では、毎年の総会で、事業計画を会員に提示し、翌年の総会で、達成された事業内容を報告し



てまいりました。法人としての公益事業の中で、最も重要な事業は、奨学金の貸与事業です。この事業を運営する為の資金は、仁泉会基金です。仁泉会基金は先達の先生方が、同窓会会館建設を目的で、苦労して積み立てたお金です。御存知のように、現在の医学部の競争率、偏差値は、他の学部と比較にならない位、高い状態が続いています。しかしながら、私立医大の入学金、授業料が、他の学部より断然高いのも事実です。最近はサラリーマン家庭の受験者も増えていますが、これらの費用が負担で、入学を諦める優秀な受験生もいます。現在の私立医大では、優秀な学生を入学させる事で受験生も増え、大学の格が上がる事により、延いては病院経営にもよい影響が出るとの考え方もあります。大阪医大でも様々な奨学金を提示し、優秀な学生を誘っています。仁泉会が運営する奨学金貸与事業も、学生に好評である事も、御理解下さい。

さて、もう1つの大切な同窓会事業として、支部組織の強化があります。現在、大学入学者における近畿圏出身者の比率は、90%に近い状態です。この傾向は、今後も続くと予想され、その対策としての、合同懇談会事業に御理解の程、お願ひいたします。

仁泉会では年間5~6回の会報発行、4年に1回の名簿の作製を行い、全会員に発送しています。この事業は、全国の私立医大の同窓会からも絶賛されています。仁泉会報は会員なら誰でも気楽に投稿できます。クラス会の紹介や予告、クラブ紹介、会員の新聞記事等何でも可能です。ぜひ、御利用下さい。最近、郵送料が高騰し、財政を圧迫しています。現在会費納入率は50%を切っています。御協力の程、宜しくお願ひいたします。

大阪医大では90周年事業として、中央手術棟、BNCT棟、大阪薬科大学との法人合併事業が達成されました。100周年の記念事業として、新大学病院本館の工事も本年度より開始されます。この病院棟が完成する事により、本大学病院は、最先端のAI機器が導入され、検査や診断のみならず、事務処理の向上等によりゲノム医療にも対応できます。完成すれば西日本でも最も近代的な大学病院となる事でしょう。

最後に、大阪薬科大学との完全統合事業が2年後に達成されます。これを契機に、お互いの同窓会との交流が深まる事を望みます。交流が本部のみならず、支部会にも拡大する事を願って、私の所信表明とさせていただきます。

令和元年度 仁泉会総会開催報告

去る5月26日(日) ホテルグランヴィア大阪にて定時総会及び評議員会が開催されました。

当日出席者62名で、午後2時30分より河野公一理事長が議長となり評議員会が開催され、

午後3時より定期総会が開催されました。総会議長は末澤慶昭先生(学19期)が選出され、

平成30年度の事業報告、決算案等の議案が原案通り可決承認されました。

総会終了後の懇親会では新理事長に選出された安藤嗣彦理事長より理事長就任のご報告があり、

ご来賓の大槻義彦先生(学9期)の乾杯のご発声で開会され、和気藹々の歓談の中、学歌を斎唱し盛会裏に終了致しました。

その後、大隈義彦先生(学9期)の乾杯のご発声で開会され、和気藹々の歓談の中、学歌を斎唱し盛会裏に終了致しました。

次回は令和2年5月に京都にて開催予定です。以下当日のご挨拶要旨を掲載させて頂きます。

仁泉会理事長総会挨拶

大阪医科大学 仁泉会 理事長 河野公一

学部21期の河野でございます。先生方におかれましては平素から本部の活動にご助力、ご支援を賜りますこと、厚く御礼申し上げる次第です。

さて、私は大学を定年退職いたしましてから、仁泉会理事長を拝命いたしまして6年になります。都合3期務めさせていただきました。

私の目標に各支部、地方会の活性化がありまして、6年かけて全国を周らせていただきました。何とか軌道に乗せることができたかと考えております。もう1つは学生会員の設立でして、PA会会長の大槻先生や植木理事長、大槻学長のご支援とご理解を得て昨年から始めることができました。学生のうちから仁泉会の活動に触れていただくことで将来の活動の一助になればと考えております。

また今回の総会では役員改選がございますが女性会員の先生にも、仁泉会活動にご参加いただければと思い、阿倍野区支部長の福本敏子先生に次期役員に立候補いただきました。

最後になりますが私は本部の理事長の任期制を提案して参りました。そこで3期6年頑張らせていただきましたが、今年これで肩の荷がおりる思いでござ

ります。先生方には6年間支えていただきましたこと心より御礼申し上げます。ありがとうございます。

今後とも仁泉会へのご支援の程よろしくお願ひいたします。これをもちまして私の挨拶とさせていただきます。



植木理事長総会挨拶要旨

学校法人 大阪医科薬科大学 理事長 植木 實

皆様、こんにちは。植木でございます。本日は総会にお招きいただきありがとうございました。多くの先生方が集われ、嬉しく思います。平素は本学のことでお世話になり、また創立100周年記念事業募金等にもご協力をいただき、感謝いたしております。

本学は、高槻高等学校そして大阪薬科大学と法人合併を行い、4年目を迎えております。両大学は融和しつつ、順調に運営がなされております。今日は学校法人大阪医科薬科大学のトピックスについて、特に大阪医科大学を中心にお話をさせていただきたいと思います。

【法人合併の中間評価的考察と組織概要】

最初に、法人合併の中間的な考察について述べます。大阪医科大学、大阪薬科大学、高槻中学校・高等学校の3校及び3つの病院は、ともに極めて順調に運営されております。これはそれぞれの合併の時に、3法人とも経営が良い状態であったことや、仁泉会を中心とする多くのステークホルダーの皆様のご支援によるものと考えております。今後は大学の統合作業を行いまして、2021年度に大学名が大阪医科薬科大学(予定)となり、それをもって法人合併が一旦完結すると思っております。

今年度末は高槻中学校・高等学校のキャンパス全面整備が完了し、また病院新本館棟の建築が始まります。さらに近い将来、大阪薬科大学の校舎を大阪医科大学の敷地近隣に順次移設し、医療系総合大学として発展を図りたいと考えております。

現在、本学法人は組織図【図1】に示すような形で運営しております。在学している学生・生徒の数は、高槻中学校・高等学校は1,600名前後、大阪医科大学は1,000名強、大阪薬科大学は約2,000名弱



であり、全体で5,000名弱になります。本学法人の全教職員数は4,400名ほど在職しておりますので、学生・生徒及び職員数をすべて合わせますと、1万人近い人員規模になります。

【大学・法人の財務状況】

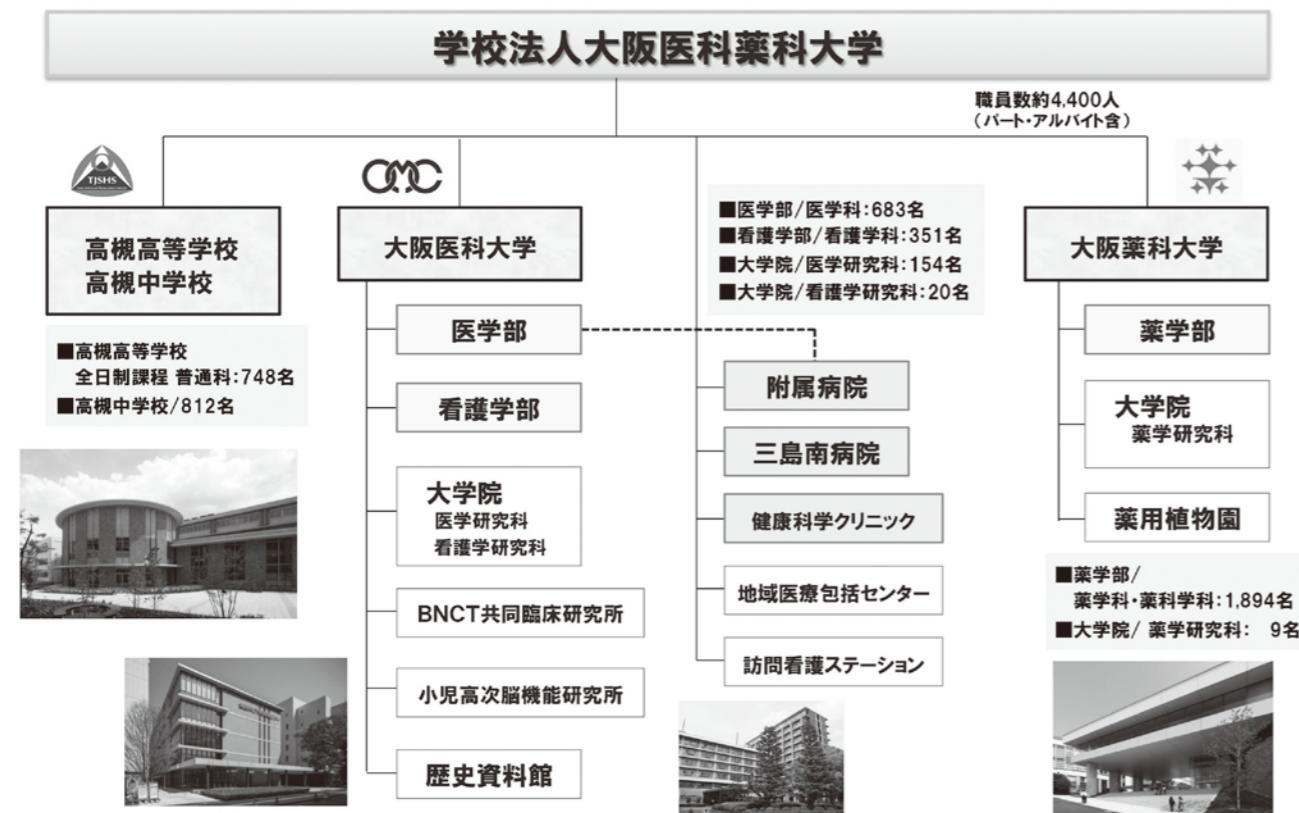
現在、本学法人の純資産は、余裕資金を入れまして760億円程、土地を時価で再評価しますと1,000億円余りの資産を有しております。単科大学の頃から比べますと資産は約2倍に増えており、内、現在の余裕資金は約400億弱です。

【関西BNCT共同医療センターの今後】

関西BNCT共同医療センターについてお話をします。このセンターは、世界的に期待されている次世代のがん治療法を行う施設です。建物は昨年3月に完成し、同年6月に開院、まずはPET-CTセンターとして稼働しております。

このセンターが本格的に稼働することは、本学の特色を打ち出し、他大学との差別化をする上で一番重要な医療・研究事業となります。今後のスケジュールについてですが、企業治験としての脳腫瘍や頭頸部癌の治験は終わり、現在、症例の追跡及び集計に入っています。結果ができ次第、半年間の先駆け審査が行われ、合格すれば治療が開始されます。治療開始は来年の7月から8月の予定で、併せて、他種のがんに対する医師主導治験の準備も進めております。熊取町の原子炉では、神経膠腫や血管肉腫、あるいは乳がん(再発)に対する治験も始まっており、実際に本センターでの治療が始まれば、これらの治験も可能になります。いずれにしましても、法人の発

学校法人大阪医科薬科大学の組織概要



【図1】

展を賭けた新しいがん治療施設となります。

【高槻中学校・高等学校のキャンパス全面整備】

高槻中学校・高等学校のキャンパス全面整備は法人合併した当初からの計画で、高校の校舎はこれまでの1.5倍の大きさとなり、図書館やホール、管理棟、大講堂など、非常に充実した設備がキャンパスの中にできております。来年の3月にはすべてが完成いたしますが、男女共学化と合わせて近畿において進学校として非常に注目される学校となります。

【大学統合に向けての動き】

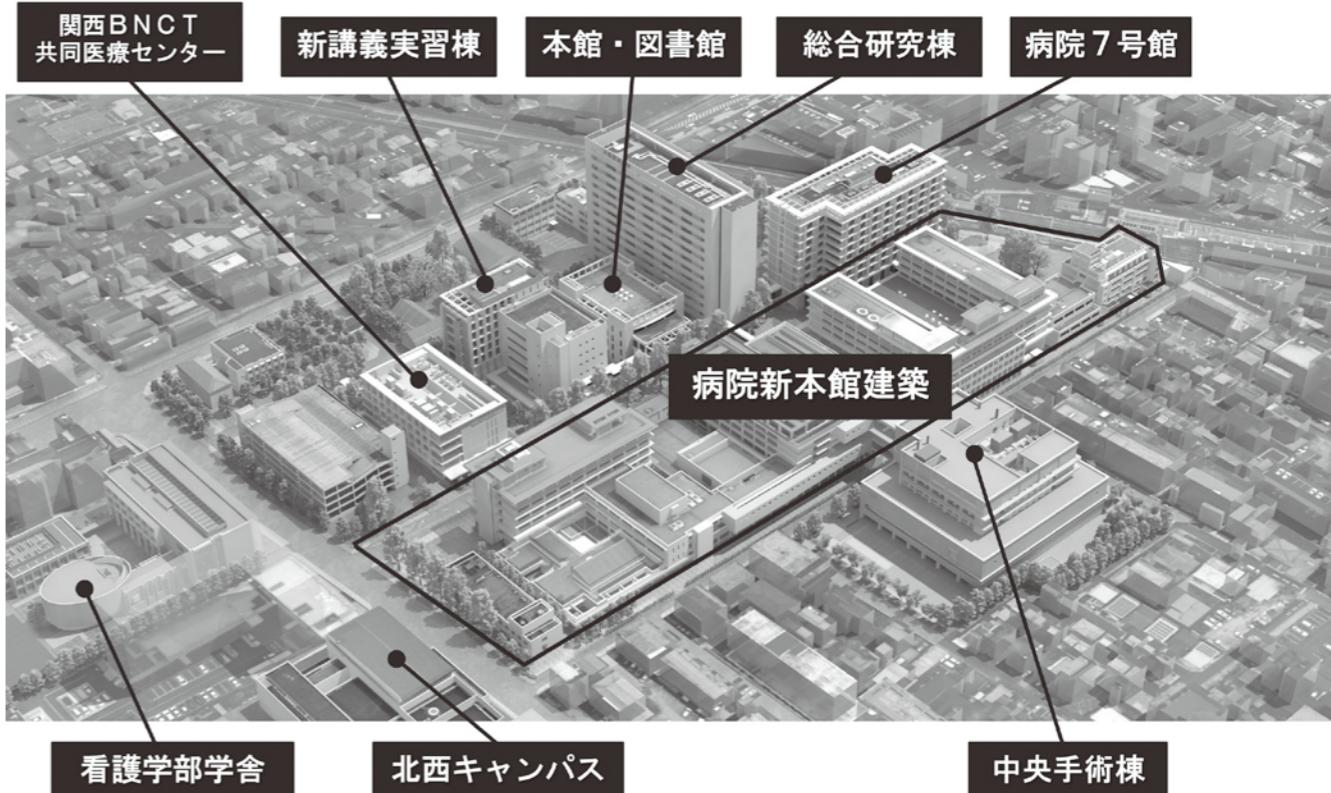
大阪医科大学と大阪薬科大学との統合は、昨年末の本学法人の理事会で決定し、2021年4月1日に統合することになりました。大学名は、仮称ではあります「大阪医科薬科大学」になる予定です。統合目的は、「次世代を担う良質の医療人の養成、並びに医薬看護連携・融和する先進的医療体制の構築・提供を目指し、特色ある学際的教育・研究と新たな

チーム医療教育を推進するため、3学部の多様な人が集う医療系総合大学を構築する」としています。統合手順としては、文部科学省の指導に従い、大阪医科大学の中に薬学部と薬学研究科をまずは設置し、そこへ薬大の薬学部の学生、大学院生に直前に一旦転籍をしていただき、2021年4月1日に大阪医科大学は大阪医科薬科大学となり統合されます。この手順は、大阪薬科大学の学生諸氏には心理的な負担をかけることになりますので、これから大阪薬科大学の学生及び父兄の皆様にご理解とご協力を得てまいります。

【病院新本館の建築と
三島救命救急センターの移設に向けて】

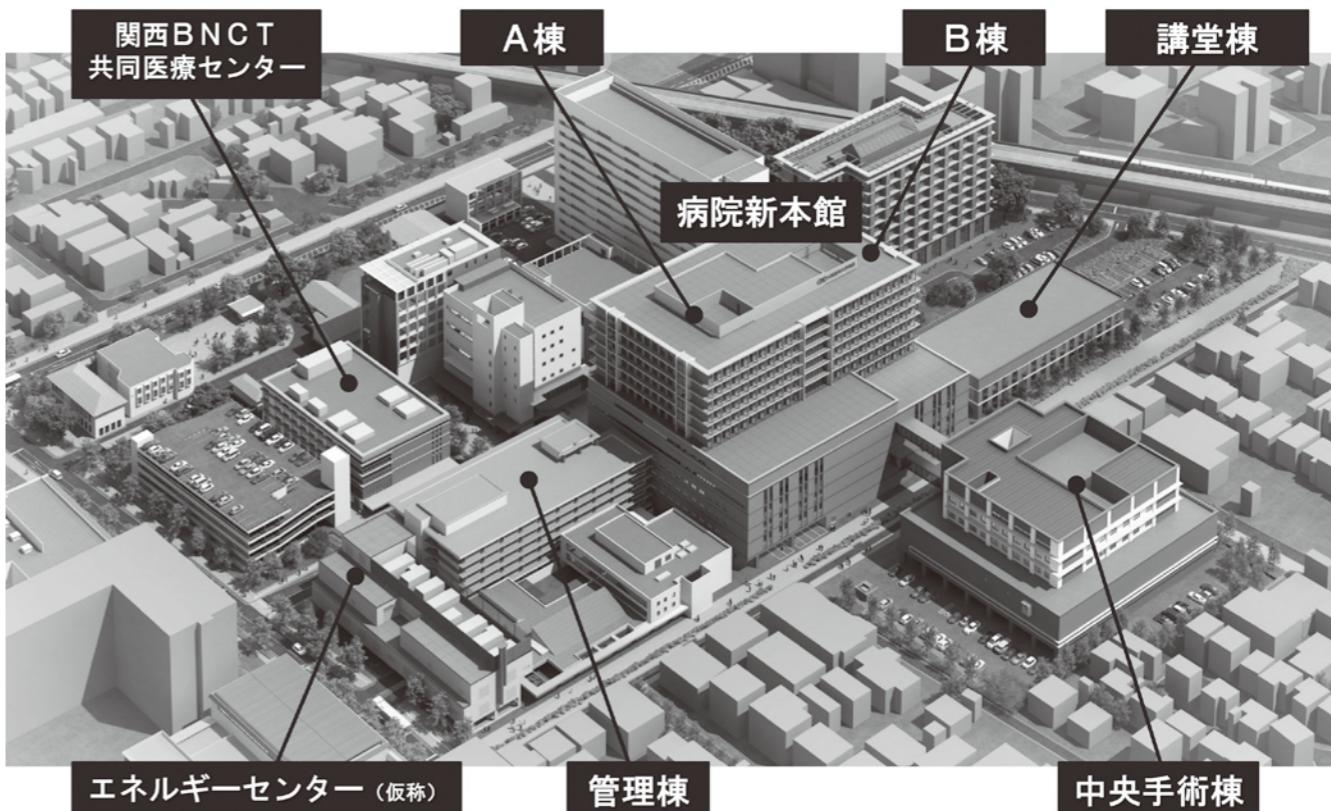
次に病院新本館の建築ですが、現在の建物を取り壊して新本館を建築するという、建学以来の大事業です。この建築ではデザインビル工法を採用し、基本設計の段階からプロジェクト・マネジメント(PM)会社が監理して、工事業者(ゼネコン)が建

大阪医科大学 本部キャンパス *2019年3月現在のイメージ



【図2】

病院新本館の建築 *完成時のイメージ(2027年頃)



【図3】

築をいたします。今年6月から解体工事に入り、A棟は来年3月頃にエネルギーセンターと同時に着工し、B棟は2023年から2025年にかけて建築を行う予定です。総工費は約400億円を見込んでいます。

10年先20年先の医療がどのように変わっているのかを予測することは難しいですが、できる限り先のことを見据えて、スーパースマートホスピタル構想の下に建築を計画しております。

建築する場所は、先生方には想い出のある臨床講堂棟及び病院5号館を解体して行なっていますが、現在、厨房や研修医室の移設を行なっています。そして、創立100周年を迎える2027年には、【図2】から【図3】のようなイメージに変貌すると思われます。

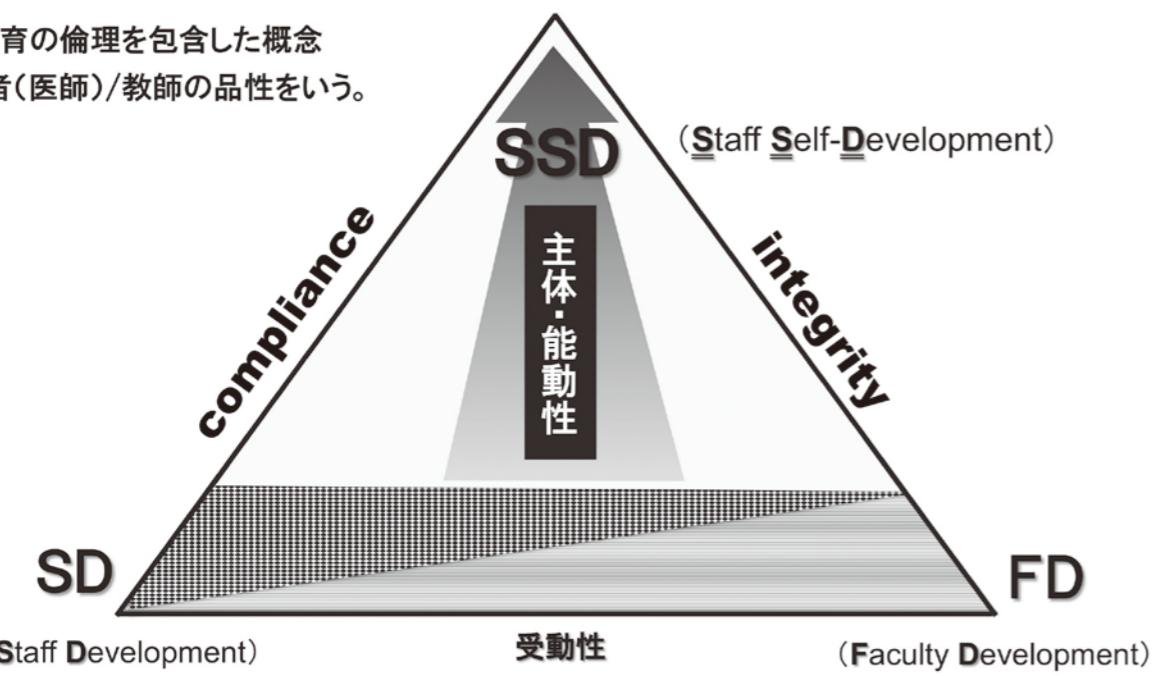
また、三島救命救急センターの本学内への移設も進めております。今は大阪府、高槻市などが運営している施設を、大阪医大が主体的に運営することになりますが、行政支援につきましては、従来通り三市・一町から財政支援をいただく形になっておりま

治療/教育的自我: Therapeutic self



治療/教育的自我：至誠仁術 (Therapeutic self)

医/教育の倫理を包含した概念
医療者(医師)/教師の品性をいう。



【図4】

す。

医療の形態は非常に変わってきておりますが、本学法人にとりまして臨床医学（医・薬・看）教育が重要であることに変わりはありません。病院新本館の完成により、先進医療を含む高度・安全医療の実践、市民病院的役割と地域の中核病院及び災害拠点病院としての責務、地域包括ケアシステムにおける救急を含む超急性期医療に一層取り組んでまいります。

【人材育成の重要性: 治療/教育的自我】

組織が大きくなりますと、どのような人材を育成するかが重要です。学生には、『至誠仁術』という学是に基づいた指導をしておりますが、職員や若い医師をどう育てていくかということも重要な課題です。SD (Staff Development) とは職員に様々な教育を施すことで、講義や講演を受けさせたり、先輩の指導も大切です。また、FD (Faculty Development) とは教員の教育能力を高めるための同様の方法のこ

とで、このSDとFDはいずれも受動的な教育であります。そして、SSD(Staff Self-Development)は、自分で勉強して自分で考え、自分で実行していく、即ち主体性と能動性のある自己研鑽を意味します。その学びの中で、コンプライアンスとインテグリティが自然に身についてくると考えています。

『治療 / 教育的自我』という考えが最近浮上しています【図4】。医師・医療者は自分で技術を高め、病気を治すことは当然のことですが、一方で、医師・医療者自身が人間性を磨き、接することで、患者の闘病に対して大きな助けになると考えられます。教育でも同じで、学問の向上はもちろん、教育者も高い品性を持って学生と向き合うことで、学生の人間的な成長を促します。このような『治療 / 教育的自我』という考え方を、本学法人の人材育成の大きな目標に掲げたいと思っています。

【学校法人大阪医科大学の今後】

これからの展望ですが、関西BNCT共同医療センターの竣工、高槻中学校・高等学校のキャンパス全面整備事業の完遂に続き、2021年に大学統合、2022年に病院新本館A棟の完成と三島救命救急センターの移設、2025年には病院新本館B棟の完成、2027年には講堂棟の建築が完了し、創立100周年を迎えることになります。

学校法人大阪医科大学はスローガンに掲げる『Society 5.0の浸透・実践』を進め、超スマート教育・研究・医療へゆっくり舵を取っていきます。そして、大阪医科大学は高度な教育を行い、人間性豊かな良質の医師の育成を目指して、教職員一同、努力してまいります。

最後になりましたが、仁泉会会員の皆様の益々のご活躍を祈念申し上げまして、ご挨拶とさせていただきます。本日はありがとうございました。



大槻学長総会挨拶要旨

大阪医科大学 学長 大槻勝紀

皆さんこんにちは学長の大槻でございます。先ほど植木理事長の方から法人の立場からお話をいただきましたので、私は教育研究を中心にこれまでの4年間を振り返りながら、今の大学はどうなっているのかご説明をさせていただきたいと思います。

まず学長になりました時にこの図で表しているように5つの教学改革方針というものを出しました。Innovation、Translational Research、Globalization、Social Contribution、Open Mind、この5つです（図1）。それぞれに5つから7つ程の行動目標を設定し、それを月に1回、教育および研究戦略会議を開き、行動目標を1つずつ検討して改革を進めてきました。



【図1】

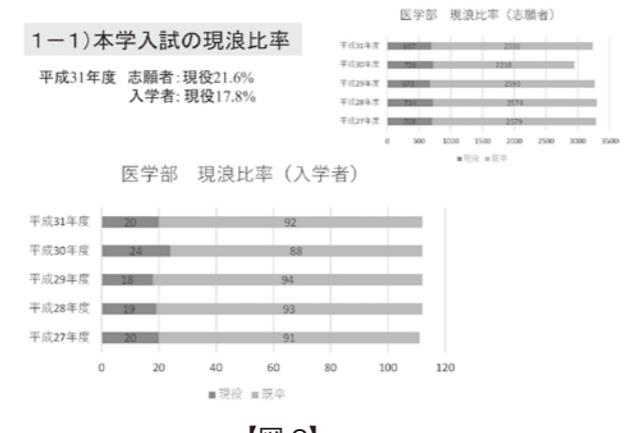
【教育 Innovation】

まずInnovation、入試改革ですが、本学はどういった学生を入学させるのか、どういう教育をしてどのような医療人を育てていくのか、3つの指針が必要になってまいります。昨年、各大学はアドミッション、カリキュラムおよびディプロマ・ポリシーの3つのポリシーを公表するように文科省から要請がありました。昨今、東京医科大学をはじめ7つの私立大学と1つの国立大学において、入試に不正があ



りました。何が問題かと言いますと、多浪生に対して、あるいは女性に対して差別があったのではないかということです。本学にも文部科学省から、入試問題や入学者の比率について抜き打ちの検査が入りました。

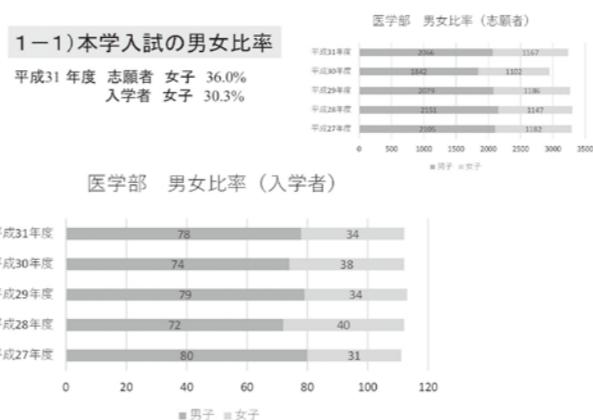
入試不正問題もありましたが、全体として医学部の受験生が減っています。東京医科大学は2000名減少、それ以外の大学も300名から500名減少しています。しかし本学は300人増加しています。何故かと言いますと、予備校では大阪医科大学は浪人生を排除しないということが知れわたっているからです。平成27年度から平成31年度までの現役と浪人生の比率を見ると、浪人生と現役生徒の比率が20%から26%で、入学者の割合と一致しています（図2）。また男女比は、女子は志願者が36%、入学者は30.6%となり、入学者の男女比とも一致しています（図3）。また本学医学部入学者ストレート率は約90%で、他の私立大学と比べて高率で6年間で卒業しやすい大学と言えます。しかし、留年する10%の学生が問題で、複数回留年を繰り返す傾向に



【図2】

1-1) 本学入試の男女比率

平成31年度 志願者 女子 36.0%
入学者 女子 30.3%



【図3】

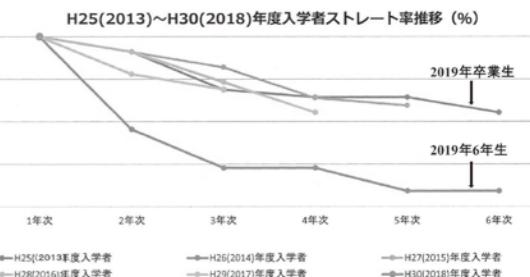
あります（図4）。

医師国家試験の対策について述べますと、国家試験の合格率につきましては100%の時があったり82%の時があったりと様々でした。その原因を徹底的に分析しますと、本学の卒業試験は、過去問から出題するという傾向がありました。卒業したければ過去問を勉強すれば通るということなので、国家試験が少し難しくなると際どい成績の学生は落ちてしまう。また3年生と5年生で進級試験がなかったので、他大学の学生に比べると本学学生の知識量が圧倒的に少なかったということは間違ひありません。昨年の6年生に卒業試験は全て新聞で行うと言ったら必死になって勉強をしてくれました。おかげで99%の合格率でした。今年の本学の新卒の合格率は94%で、全国の国公私立の平均を上回りましたので、今後も94%を維持していきたいと思います（図5）。

次は、医学教育分野別評価（国際認証）についてです。アメリカの医師国家試験を受けるためには、外国の医学生は国際認証を受けていなければならぬことが発表されました。国際認証を取っていないのは先進国の中では日本だけです。臨床実習を約70週間しなければならないのですが、本学は46週間しか行ていませんでした。そこでカリキュラムを大幅に変え、今年の2月1日に国際認証を受領いたしました。これは後々大きな効果が出てくるはずです。

次に、URAとIRの専門家を採用いたしました。文部科学省にURAの専門家を紹介していただき、特務教授として採用しました。科研費の書類の書き

1-2) 本学の入学者ストレート率



【図4】

方など貴重なアドバイスをいただきました。その中で相当なスピードで大型事業や科研費を獲得することができました。また、IRとしてビッグデータを解析する専門家を採用して、情報を専門的に分析をして提言をしていただきました。これも非常に助かっています。

【研究 Translational Research】

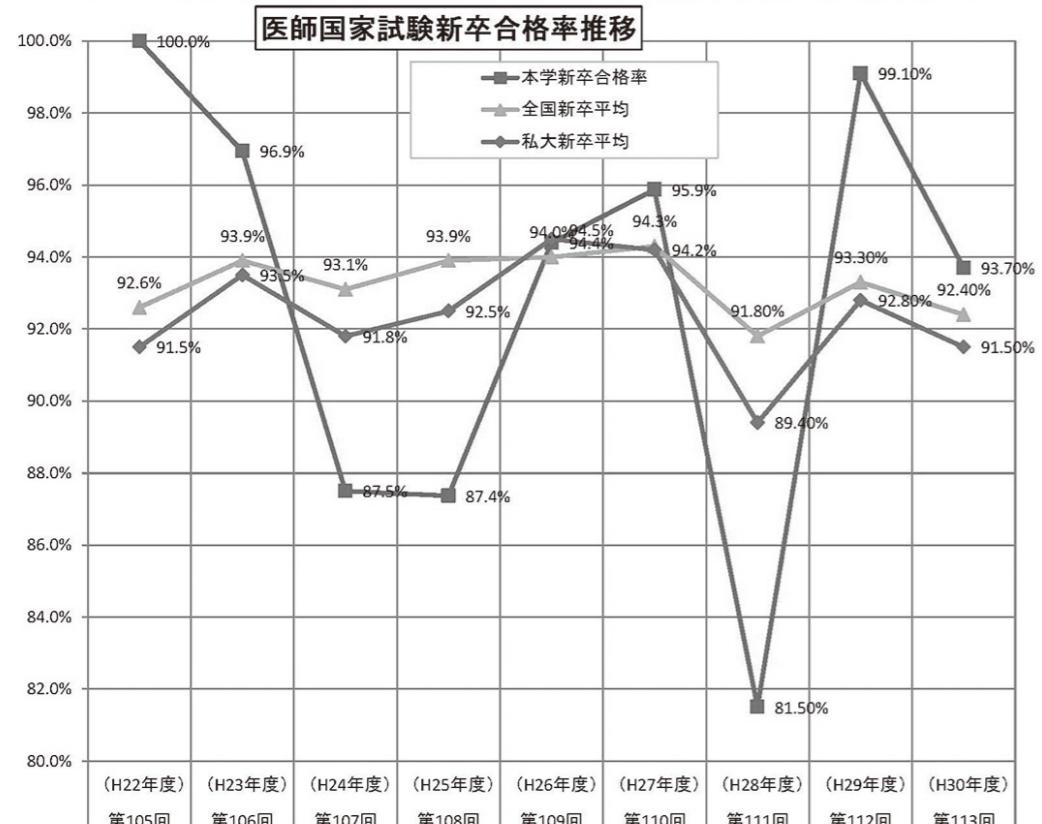
科研費の獲得についてですが、私が学長に就任した当時は科研費の獲得状況は全国82大学の中で下から3番目でした。現在は、当時と比べると採択数は2倍、交付内定額は1.5倍に増やすことができました。これは多くの関係者のご助力のおかげであります。

現在では、科研費も含めて競争的外部資金は4億4千万円獲得することができました（図6）。

私立大学等総合改革支援事業（私学助成）の採択もとても大事な事業です。タイプ1というのは、教育の質を問われ、充実していれば補助金をいただけるものです。タイプ2は学学連携、タイプ3が産学連携、タイプ4は地域社会の連携が問われます。通常は、このうちの1つが取れればよいのですが、本学は2年続けて3タイプの補助金をいただいております。

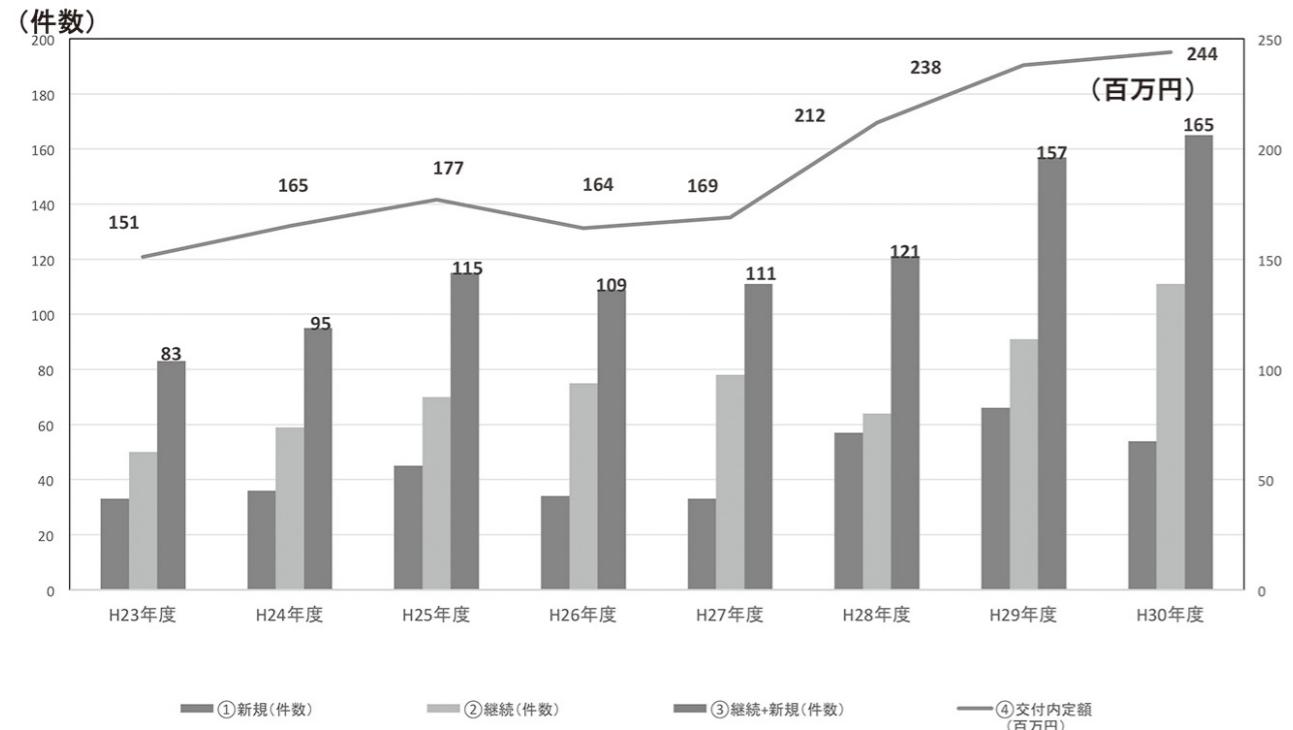
医療統計学の専門家も2名採用しました。有名なジャーナルに投稿をすると、必ず医療統計学の専門家が共著者に入っていますか？と聞かれます。研究者から非常に高評をいただいているです。

1-2) 大阪医科大学国家試験合格率推移



【図5】

2-1) 科研費の採択数及び交付内定額推移



【図6】

【社会貢献 Social Contribution】

次は社会貢献です。これまで教学という立場では高槻市と共同の事業をしたことがありませんでした。これではいけないということで市民の健康増進、口腔保健、認知症の専門家の養成をするという内容の協定を結びました。

続きまして私立大学研究ブランディング事業です。産官学の連携事業ということで「たかつきモデル」を構築しました。産官学で取り組む非常に有意義な事業で、1. 唾液のメタゲノム解析と成人病との関連性とインターバル速歩を通じてのフレイルの改善（大学）。2. 検査薬や商品化（企業）。3. 市民への広報活動と施策（高槻市）からなっています。

災害支援についてですが、本学はこれまで歴史的に東日本大震災、熊本地震、西日本豪雨災害についてJMAT、DMATの派遣を行ってきました。また、兵庫県では2014年から、高知県では2015年から、寄附講座を受け入れております。兵庫県や高知県の地域医療拠点病院に医師を派遣しています。

【国際化 Globalization】

次に国際化についてですが、中山国際医学医療交流センターの機能強化を図るために専任の講師と職員を採用しました。外国大学との交流の活性化の面では、国立台湾大学との単位互換の協定を結びました。国際認証を持った本学と国立台湾大学では、5年生と6年生では同じカリキュラムですので、単位互換を行い易くなります。

他にも交流協定を結んだ海外の大学がありますが、こちらの大学についても単位互換を進めていき、本学の特徴にしたいと考えています。

【情報の共有化 Open Mind】

次はOpen Mindです。半年に1回、教育・研究集会を行い、学生や教員との意見交換を行ってきました（図7）。また、ノーベル賞受賞者の山中先生や中村先生お招きし、講演をいただきました。これは、学内の学生や研究者のリサーチマインドを大いに刺激したと考えています。学長室のホームページ「Open Mind」でこういった活動の報告などを詳細にあげております。

御清聴ありがとうございました。

教育研究集会



【図7】

平成30年度事業報告書

1. 学術研究振興援助事業

平成30年度は申請が9件あり、それに対し助成を行い、機関紙「仁泉会ニュース」にて報告を行った。また母校の学術研究援助の為に、BNCT施設の運営法人である（一社）BNCT関西医療センターの会費を支払った。

2. 奨学生貸与事業

平成30年度に採用された奨学生は6名であり、各々年額60万円の奨学生を貸与した。
貸与総額は38,617,000円である。

3. 本部諸事業に関する事項

1) 大阪医科大学への後援事業

- ①母校の募金活動の広報協力を行った。
- ②平成30年度卒業生の加藤翔平君に対して仁泉会理事長賞を授与した。
- ③母校の西医体活動に援助を行った。
- ④母校の学園祭に援助を行った。
- ⑤母校の活動報告として、学報及びOMCニュースを年4回全会員に向け発送した。
- ⑥母校の既卒者国家試験合格支援として、援助を行った。
- ⑦在学生に向けた「学生生活虎の巻」と題した講演会及び交流会を年2回行った。

2) 会員の福利厚生への事業

- ①会員の動向把握を行い、物故会員60名に対して供花料及び弔電を送った。
- ②会員相互の親睦交流を深める為に、平成30年度中に企画されたクラス会の開催について案内状発送事務の支援を行った。
- ③平成30年度の長寿会員に対して傘寿祝の記念品を贈呈した。
- ④岡山県豪雨災害にて診療不能の被災にあった会員1名に対しお見舞い金を送った。

3) 仁泉会組織強化に関する事業

- ①山口県在住の会員を対象に、地区懇談会を開催し情報交換を行った。
- ②支部会開催にあたり、案内発送等の事務支援を行った。
- ③本部支部間の連絡並びに学内の状況説明のた

め17回支部へ役員を派遣した。

- 4) 全国私立医科大学同窓会連絡会との連携事業
 - ①第28回全国私立医科大学同窓会連絡会「西部会」に出席し、同窓会が抱える問題と解決法について協議を行った。
 - ②第29回全国私立医科大学同窓会連絡会「全国会」に出席し、出席各校と情報交換を行った。
 - 5) 広報事業
 - ①機関紙「仁泉会ニュース」を年6回発行した。
 - ②フェイスブック及びホームページにて、各種案内及び母校の情報提供を行った。

6) 会員に関する事項

- ①新入会員に関する事項

平成30年4月の入学生は112名、平成31年3月の卒業生は111名であり、平成30年度入会者は223名である。
- ②会員数に関する事項

平成31年3月末日現在の会員数は5,666名である。
- ③物故会員に関する事項

平成31年度に届出のあった物故会員は62名である。
- ④会費免除者に関する事項

平成30年度より会費免除となった会員は38名で平成31年3月末日現在の長寿会員（免除会員）数は566名である。

7) 役員及び会議に関する事項

- ①理事会役員に関する事項

平成31年3月末日現在の役員は次の通りである。
理事長1名、副理事長2名、常任理事7名、理事12名、監事2名、参与5名 合計29名
- ②会議に関する事項

平成30年度に開催した会議及び役員が出席した会議は次の通りである。

 - (1) 総会1回、評議員会1回、理事会5回、監事會1回。
 - (2) 第28回全国私立医科大学同窓会連絡会西部会及び第29回全国私立医科大学同窓会連絡会全国会に仁泉会役員が出席し同窓会活動について協議を行った。
 - (3) 支部会に17回に出席した。

以上

平成30年度収支決算書総括表

自平成30年4月1日～至平成31年3月31日決算 (単位 円)

科目	合計	一般会計	基金特別会計
I 収入の部			
基金収入	350,884	0	350,884
入会金収入	1,790,000	1,790,000	0
会費収入	22,420,000	22,420,000	0
学生会費収入		1,368,000	
寄付金収入	0	0	0
雑収入	3,569,051	3,568,814	237
奨学生返還金	6,859,000	0	6,859,000
繰入金収入	2,000,000	2,000,000	0
当期収入合計 (A)	38,356,935	31,146,814	7,210,121
前期繰越収支差額	30,207,914	11,965,580	18,242,334
収入合計 (B)	68,564,849	43,112,394	25,452,455
II 支出の部			
事業費	15,653,036	11,393,036	4,260,000
管理費	13,876,009	13,812,510	63,499
特定預金支出	1,000,479	1,000,479	0
繰入金支出	2,000,000	0	2,000,000
当期支出合計 (C)	32,529,524	26,206,025	6,323,499
当期収支差額 (A)-(C)	5,827,411	4,940,789	888,622
次期繰越収支差額 (B)-(C)	36,035,325	16,906,369	19,128,956





祝・入学

平成31年度

大阪医科大学入学宣誓式

平成31年度の入学宣誓式は、平成31年4月3日(水)午後2時より高槻現代劇場大ホールにて、医学部医学科112名、看護学部看護学科87名で行われました。まず大槻勝紀学長より告辞が述べられ、続いて来賓祝辞を河野公一仁泉会理事長が述べされました。当日の挨拶などを以下に記させていただきます。

学長告辞

大阪医科大学学長 大槻勝紀

梅、雪柳、桜と咲く時期を違えずに開花する春爛漫の中、今日のよき日に平成最後の大槻医科大学医学部および看護学部の入学式を迎えることができました。医学部第74期生112名、看護学部第10期生87名の新入生の諸君、並びに保護者の皆様、ご入学誠におめでとうございます。また本学の入学式にご出席賜りました高槻市長濱田剛史様をはじめ多くの御来賓の皆様に厚く御礼申し上げます。

3年前に本学は大阪薬科大学と法人合併をし、2021年4月1日を目指して、大学の統合を予定し、医学部、看護学部、薬学部を備えた医療系複合大学として歩んでいきます。本年4月1日に発表された新年号の「令和」は万葉集からの引用で、安倍首相は令和には「美しく心寄せ合う中で文化が生まれ育つ」という思いを述べています。古い歴史を持った大阪医科大学と大阪薬科大学が一つに心寄せ合い、医療系大学として新たな価値を創造する大学として発展させていきたいと思います。

大阪医科大学は創立92年を迎え、西日本の私立大学医学部で最も歴史のある大学であり、ま



た入学する上で難関大学として知られています。看護学部は第10期生を迎えるまだ新しい学部ですが、医学部同様、関西有数の偏差値の高い学部として評価されています。諸君の中には、本学を第一志望とされた方、国公立大学の受験に失敗し本学に入学された方、あるいは他学部の出身で医療に興味を持ち、本学の門を叩かれた方など様々な想いで今日の入学式を迎えたことだと思います。本年度の医学部志願者数は全国的に減少しました。志願者数の減少の要因として、昨年度から再三にわたって報道さ

れた医学部入試の不正問題や社会の景気の影響などが挙げられます。私は本学のHPに「アドミッションポリシーに基づいた透明性、公平性の高い入試を行っていますので受験生の皆様は安心して受験してください。」と掲載させていただきました。他大学が苦戦する中、本学医学部の志願者数は増加しました。看護学部の志願者は若干減少しましたが、医学部と同様、高い競争率の中での入学です。しばらくの間は何度も「入学おめでとう」と周囲の方から祝福を受けることでしょう。本学は他の私学と比較して歴史の重みだけでなく、利便性に富み、学生の教育環境にも優れています。在学生は「自由な学風」を誇りに思っています。しかし大学は学生諸君の「自由な学風」を尊重しますが、学生諸君に医療系学生として恥じない行動を求めます。諸君は白衣を着て病院内で実習をすることになります。学生が白衣を着ると患者さんは諸君を医療人として見ます。白衣を着た学生の悪ふざけや行為が即、大学のブランドイメージを損なうことになります。特に医学生や看護学生が反社会的行為を行うと、他学部学生が同じ行為を行なった以上に一般社会からバッシングを受けます。そのため大学は態度教育に努めますが学生諸君も自らを律することが求められます。次に学習法についてお話ししますと、私の学生時代と比較して、現在の医学生は分子生物学、遺伝子学や再生医療学など、学ぶべき知識量がはるかに増大しているため、これまでのような「丸覚えの学習法」では到底歯が立ちません。看護学部においても同様です。そのためには授業に出て、医学、看護学の基礎をしっかりと学び応用できる力、すなわち「問題解決型能力」を身に付けることが大切です。看護学部では2年生までに必要な基礎科目の単位を揃えなければなりませんが、医学部では各学年の科目はすべて必修で、単位制かつ学年制です。そのため進級判定の要件については学則を、また医療系学生の行動規範については学生懲戒規程を熟読

し遵守してください。

野口英世博士はロックフェラー研究所に勤めて以来、母に懇願され一度だけ日本に帰国しました。その折、医学生を前に講義した際、残した言葉に‘Honesty is the best policy.’があります。諸君も医療人として誠実に物事に取り組んでいただきたいと思います。

さて「2018年問題」という言葉をご存知ですか？昨年から再び18歳人口が減少しています。これまでも18歳人口が減少していましたが、大学の進学率は80%と上昇し、何とか大学の経営は成り立っていました。しかし、すでに私立大学の約40%が定員割れを起こしています。18歳人口は2018年には117万人、2031年には99万人と減少の一途をたどります。すなわち人口減少期への再突入と進学率の頭打ちが重なるため、大学淘汰がますます現実味を帯びてきます。下村博文元文部科学大臣は「自己改革を求める大学は国立大学でもつぶれる。」と発言しています。今後は、大学統合、多様な入試改革や大学の独自性が大学存続にとって重要なキーワードになってきます。このように大学が抱える問題は少子化だけでなく、いかにグローバル化へ対応できるかが大学の新たな課題です。

今年度の学長のテーマは両大学の統合と国際化です。昨年から大学統合に向けてのWGを立ち上げ、現在、多職種連携教育の充実や研究者の交流を進めているところです。国際化については在学生での短中期留学と単位互換を、医学部大学院に「医科学修士課程」を設け、外国人留学生の受け入れ、外国大学との単位互換や共同研究を推進していきます。

次に新入生諸君には本学の歴史を知ってもらう上で、「建学の精神」についてお話しします。本学の初代理事長の吉津度先生は「建学の精神」として「医療機関の使命は医学教育と医学研究であり、またそれらは実地の医療に活かすことで達成される。」と唱えました。本学が創

立された昭和2年は昭和の大恐慌の最中で、中国、ハワイ、ブラジルなどへ移民団が結成された時期もあります。当時、移民団での医師不足が社会問題となり、衆議院議員であった吉津度先生は現在の京阪電気鉄道株式会社から財政援助を受けて、本学が設立されました。本学設立の構想には看護学校の設立も謳われていました。学歌に移民団への医師派遣の想いが込められています。学歌の第5節の歌詞をご覧になってください。そこには「南溟の空遠く、アマゾンの岸の花、崑崙か、ゴビの原など」と謳われ、本学は今でいう国際化を目指した大学でもあります。また「実地医療に活かす」という精神は、今なお阪神淡路大震災、東日本大震災や熊本地震などの救援活動や、地域医療として兵庫県や高知県への医師派遣事業として受け継がれています。私は4年前に学長に就任し、建学の精神に則り、教育・研究に対して5つの教学改革方針を示しました。Innovation「教育改革」、Translational Research「基礎から臨床への橋渡し研究」、Globalization「国際化」、Social Contribution「社会貢献」、Open Mind「情報の共有化」です。5つの教学改革方針については詳しく大学のHPの学長室HPに掲載していますので一度はご覧になってください。

新入生諸君には自由な学風の下、クラブ活動で体を鍛え、良き友人を得、充実した学生生活

を enjoy してください。ただし、在学中、国家試験レベルは軽く突破できるだけの学力は身に付けておかなければなりません。

野口英世博士の名言集が残されています。そのうちの幾つかを紹介します。
「努力だ、勉強だ、それが天才だ。」「誰よりも、3倍、4倍、5倍勉強する者、それが天才だ。」「ナポレオンは夜3時間しか眠らなかった。彼になし得られる努力が、自分になし得られぬはずがない。」

実際に、野口博士は寸暇を惜しんで脳梅毒患者の脳の連続切片標本を顕微鏡観察し、遂に脳内に梅毒スピロヘータを発見しました。

これからも何度も聞くと思いますが、私の座右の銘は「死ぬほど勉強して死んだ者はいない。」です。

最後になりましたが、入学のお祝いの言葉として論語の有名な一節「子曰く、之を知る者は、之を好む者に如かず、之を好む者は、之を楽しむ者に如かず。」を贈ります。医学的知識や実地医療において知っているだけではアマチュア、好きなだけではセミプロ、趣味のように没頭し楽しめるようならプロと言えるかもしれません。諸君が将来、教育、研究や臨床に対して楽しんで向き合っていく医療人にならんことを祈念して学長の告辞といたします。



祝辞

**一般社団法人大阪医科大学
仁泉会理事長
大阪医科大学名誉教授 河野公一**

新入生諸君、ご入学誠におめでとうございます。また本日ご出席されています、ご両親をはじめご家族の皆様には感謝ひとしおのことと存じます。心からお慶び申し上げます。

私はただいまご紹介いただきました、大阪医科大学仁泉会理事長の河野です。この良き日に本学同窓会を代表して一言お祝い申し上げます。

大阪医科大学は1927年本邦初の5年制医学専門学校として開学以来、医学部卒業生は9,666名を数えます。また今年3月には医学部68期生111名、看護学部6期生84名がめでたく卒業されました。現在、日本全国、世界各地で諸君の先輩が活躍中です。本日、医学部74期生112名、看護学部10期生87名のみなさんを迎えることとなり誠におめでたく喜ばしいことと存じます。

さて、新入生諸君はここで息を抜かずに勉学は続けてください。皆さんのがこれから大阪医科大学で学ぶ医学・看護学の領域は日々目覚まい進歩を遂げています。短期間の詰め込み学習で習得できるようなものではありません。授業に出席するだけでなく、自学自習を通じての毎日の研鑽の積み重ねが大切です。また学生研究員となって教室に入り出ることも視野を広げることにつながるでしょう。

私も本学の教授在任中に多くの学生諸君と接し、彼らの日々成長してゆく姿に眼を見張る思いでした。

また、医学・医療・看護の世界の先人の書物に眼を通し、彼らの生き方を学ぶことも大切です。私の敬愛する恩師の一人であり留学先のロンドン大学公衆衛生大学院院長で産業医学研究

所所長のリチャード・シリング教授は彼の名著「働く人々の病気」のなかで「職業病はすべて環境要因のなせる業であり、ゆえに予防に勝る治療はない」が私のその後の人生を決定つけたといつても過言ではありません。また「白衣の天使」ことフローレンス・ナイチンゲールは同じくロンドン大学セント・トマス病院に1860年、世界に先駆けて「人道・博愛・生の尊厳」を掲げて看護師養成校を創設しましたが、第1期生はわずかに15名でした。私は英国留学当時、彼女の後輩たちと語り合い、その生き方に大変感銘を受けたものです。

次に打ち込める趣味を身に着けてください。その一つがクラブに入り活動することです。本学には数多くの運動クラブや文化クラブがあります。いずれかに入り、多くの先輩、後輩を作ってください。本学学生として視野を広く持つことが出来るだけでなく、諸君の同級生同士の横の連携以上に、クラブの先輩、後輩のつながりは将来にわたって大きな支えとなるでしょう。

私自身もクラブ活動で汗を流し、大切な先輩や友、また生涯の伴侶を得ることが出来ました。

保護者の皆様、クラブに入ったら勉学がおろそかになるのではとご心配されておられるのではないかでしょうか。そんなことは絶対にありません。ご子弟がクラブ活動をしたいといわれたら、快く許してあげてください。

新入生諸君は今日から、大阪医科大学学生としての生活が始まります。前途は洋々と広がっています。悔いのない学生生活を送り人に信頼される立派な医師・看護師となられることを期待しつつお祝いの言葉とさせていただきます。



受章報告

令和元年春の叙勲におきまして下記の先生の受章が判明いたしました。
母校同窓会として慶事でありますので、ここにご報告させていただきます。

旭日双光章

学部9期 大隈義彦先生 保健衛生功労 ※新聞切抜(P34)に関連記事掲載

瑞宝双光章

学部12期 松原 健先生 学校保健功労

瑞宝小綬章

学部16期 清金公裕先生 教育研究功労

各地で喜びの受章・受賞等あれば、事務局宛書面、新聞などをお送りくださるか、
原稿をお届ください。

本誌にて広く紹介させていただきます。

お詫びと訂正

令和元年5月1日発行仁泉会ニュース第50巻第3号の26ページ

「気になるあの場所・あの人編集部がジャストミート！」の記事につきまして
先生のお名前に誤りがございました。大変申し訳ございません。

お詫びし訂正させて頂きます

誤 神崎裕美子先生 → 正 神崎裕美子先生

学会報告

第37回 日本耳鼻咽喉科免疫アレルギー学会

文責／寺田哲也（学41期）

会長：河田 了（大阪医科大学 耳鼻咽喉科・
頭頸部外科学教室）

会期：平成31年2月7日(木)～9日(土)

会場：ホテル阪神

第37回日本耳鼻咽喉科免疫アレルギー学会
総会ならびに学術講演会を平成31年2月7日
(木)～9日(土)に大阪市のホテル阪神にて開
催させていただきました。本学会は日本耳鼻
咽喉科学会の分科会のなかで、最も基礎研究
を重視した学会で腫瘍から炎症まで、幅広い
基礎研究分野を含んでいます。

特別講演は京都大学ウイルス・再生医科学
研究所の河本宏教授にお願いしました。難解
な免疫の仕組み、または再生医療の未来につ
いてユーモアを交えながら分かり易く講演して
くださいました。教育講演は、国立病院機
構相模原病院、臨床研究センターの海老澤元
宏先生にお願いしました。臨床医なら理解して
おく必要のあるアナフィラキシー対策につ
いて、御自身が作成されたガイドラインに基
づいて詳しくご講演して下さいました。海老

澤先生は WAO（世界アレルギー協会）の次
期 President にご就任されるそうです。

シンポジウムでは、脂質メディエーターに
フォーカスしたセッションを組みました。

「アレルギー疾患における脂質メディエー
ター研究の新展開」と題して、清水猛史教授（滋
賀医科大学）、岡野光博教授（国際医療福祉大
学）の司会で活発な討論が行われました。武
富芳隆先生（東京大学）による基調講演の後、
3人のシンポジストによる講演と活発な討論が
行われました。

Basic & Clinical Conference と名付け、基礎
研究者と臨床研究者のいわゆるディベートを
企画しました。発表時間はあえて短くしてい
ただき、十分な討論時間を設けることとしま
した。「頭頸部免疫療法」、「IgA 腎症」、「好酸
球性副鼻腔炎」、「アレルギー性鼻炎に対する
抗原特異的免疫療法」、「上咽頭癌」の5つを
取り上げたこの Conference から、これからの
研究の seeds が見つかったものと確信できま
した。

モーニングセミナー、イブニングセミナー、
ランチョンセミナー計7つを企画し、一般演
題として、口演49題、ポスター55題を頂戴しま
した。ポスター演題には、発表者全員に対し
てポスター下部に「独り言欄」を設けること
にし、自由につぶやいていただきましたが、
Wit に富んだものが沢山あり、その中で特に
優れた独り言を懇親会の場で表彰いたしまし



本学会のスタッフ

た。

奨励賞応募演題は、12演題の応募があり、いずれも非常にレベルの高い内容の発表でした。最優秀演題が理事の投票によって決定され、懇親会の場で表彰されました。この最優秀演題には、大阪医科大学卒業で、現在他学の耳鼻咽喉科に所属する先生が受賞されました。嬉しくもありましたが、母校に残って欲しかったという残念な気持ちも感じました。

倫理分野の共通講習として、月山淑先生（和歌山医大）に「人生の最終段階における意志決定」という演題でご講演をいただきました。月山先生のテンポ良いご発表で、聴衆にとって大変意義のある、あつという間の1時間でした。

このような学会を主催することが出来たのは、仁泉会の諸先生方からいただいた有形無形の数々のご指導のお陰であると思います。文面を持って深謝させていただく次第です。



学23期生（昭和49年卒）同窓会 およびゴルフコンペのお知らせ

●北野博一先生をお迎えして卒後45周年記念同窓会を下記の要領で開催致します。

日時：2019年11月9日（土）18:00～

場所：インターモンチネンタル大阪（大阪駅北グランフロント内）

形式：テーブルバイキング（会費：18,000円）

同伴：可（同伴者会費：10,000円）

宿泊：ホテルは各自でおとり下さい。

世話人：竹中 洋、木下光雄、梶野興三、近藤敬一郎（090-2358-3276）

●49杯ゴルフコンペのご案内

日時：2019年11月10日（日）

場所：西宮カントリー倶楽部（兵庫県西宮市仁川町6丁目19番7号）

同伴：可

スタート：10時過ぎ（帰りはやや遅くなります）

世話人：竹中正純、桜本邦男（072-877-7788）

●出欠のお問い合わせは、9月末頃に往復はがきをお送り致します。

支部だより●●●

平成31年「仁泉会姫路（播州会）地区総会・学術講演会」報告

文責／岡村信介（学23期）

平成31年3月23日（土）姫路市内のレストラン「サンベルジュ メゾン」において、平成最後の仁泉会姫路（播州会）地区総会・学術講演会・懇親会を開催しました。仁泉会本部から河野公一先生（仁泉会理事長、学21期）が参加して下さいました。

吉田（悌）先生から平成30年度の会計報告の後、河野先生より仁泉会の現況をお聞きし、支援金を戴きました。

酔わないうちにとまづ記念撮影を行いましたが、宍粟総合病院の植木 健先生も講演会には間に合いました。

講演会は現在関西 BNCT 共同医療センター副センター長をされていらっしゃる脳神経外科の黒岩敏彦教授（学28期）にお忙しい中お越し頂き、「悪性脳腫瘍の克服を目指して」のタイトルで講演して戴きました。

講演内容は「脳腫瘍の中でも脳実質内発生腫

瘍である神経膠腫、特に膠芽腫の生命予後は極めて不良であり、5年生存率は10%程度である。大阪医大脳外科では、術中蛍光診断で摘出時に腫瘍だけを光らせて摘出率を高めており、術後は中性子捕捉療法（BNCT）を行うことにより、予後の改善を得ている。BNCTは、癌細胞一つ一つを標的にした治療法で、今まで原子炉を使用する必要があったが加速器での治療法が可能になり、この装置は大阪医大内にいち早く設置された。脳腫瘍だけでなく、悪性黒色腫や頭頸部の癌など種々の癌に有効な画期的治療法であり、今後の展開が期待される。」と結ばれました。

この後、河野仁泉会理事長のご発声で乾杯し、懇親会はいつものようにフランス料理のフルコースとワインで時間を忘れて和気相合と行わされました。

今年は初参加の先生も来られましたので、順番にそれぞれの自己紹介をして近況報告を行いました。最後に参加者全員で大阪医科大学学歌の「暁映ゆるひんがしの・・・」の合唱1番2番5番で終わりました。

御講演頂きました黒岩敏彦先生のますますのご活躍を祈念し、来年もここで親睦を深めたいと思います。



後列左から 辰巳、広田、田村、吉田（悌）、宮本、薄木

前列左から 松岡、吉田（繁）、河野理事長、黒岩教授、段、岡村

また、次回の開催が近づきましたらご案内させて頂きます。

参加者（敬称略）

河野公一 理事長（学21期）
黒岩敏彦 教授（学28期）
段 武夫（学6期）吉田繁一（学14期）
松岡伸二（学19期）岡村信介（学23期）
吉田悌三郎（学27期）田村 亮（学28期）
宮本茂好（学29期）薄木洋明（学37期）
植木 健（学38期）辰巳嘉章（学46期）
広田千賀（学54期）



クラス会だより

平成31年4月 大阪医科大学三八会の報告

文責／太田 稔（学12期）

平成31年の終わりに近い4月13日、38会の皆さん14人同伴のご夫人方共に22人が集まりました。集まってくれたのは80歳を超す御年の方々の会がありました。今回の目的地は淡路島のホテルで、懐石料理の食事を味わいながらの、同窓仲間での語り合いのひと時を求める会合でした。神戸三宮に大型バスが待っていて、京都、高槻、からの8人のグループが乗り、異常冷気気象に見舞われていつもより遅い桜並木のある新神戸駅前で更に8人が合流して淡路に向かって神戸の市街を抜けて淡路島への高速道路に入り明石海峡を渡り、淡路島を縦断する道路をひた走りに進み予定の時刻にホテルニューアワジ・ヴィラ楽園の前に着きました。それ

ぞれゆつたりとした寝室とリビングの付いた部屋で海を見渡すことの出来る個室露天風呂がありました。

大浴場での入浴を楽しんだ先生も宴会場に集まり集合写真を済ませて宴会に移りました。平野先生の司会で始まり、西村先生から歓迎の言葉が述べられました。続いて昨年4月に亡くなった三村先生のご冥福を祈って黙祷を捧げました。京都の会合での三村先生のお姿と独特的の語り口を懐かしく思い出されます。1965年昭和38年に卒業した62名の同級生が55年の間に判明しているだけでも33名が鬼籍に入れました。その他音信不通で連絡の取れない方は8名です。京都の内田先生から闘病中の加藤一博先生の現況について話されました。続いて大学の状況と将来について、私達の同級生の中で最も長く大学に関わり続けて、今も元気に活躍され大阪医科大学理事長を務めておられる植木實先生から大学の膨大な事業予定と大学周辺の環境整備の模様について説明がなされました。

最近に建設された病院の7号館と中央手術棟を残して他の病棟の全ての建て替え工事事業の

計画で、従来からの病棟を逐次解体と建築を繰り返し現存の機能を損なうことなく進めるとの工法が採用され、工事開始は2019年5月末からで、全てが終わるのが2027年3月、総工費400億円の壮大な建築計画です。病院棟はA棟とB棟に別れ、それぞれ12階建てのもので、現在の建物より5階高くしたものです。それ以上の高さは消防法など規制にかかり無理だそうです。完成が2027年ですから7年先になり、完成を見ることが出来る時まで生きて居られるだろうかと夢見るような、しかし希望のある話でありました。大阪府三島救命救急センターを建築計画の病院新本館A病棟の中に移設する予定であること、更に高槻中学校、高槻高校の全面整備事業は2020年4月で完成予定のことでした。会計報告が丸山優子先生からされ、今までの収入、支出、と現在の残高について承認されました。ご自身を含めて高齢者の域に入り、今後の会の運営を心配するようになった、とのことでした。来年の会合の場所の候補として熱海が提案されました。内田先生から年齢からし

て出来るだけ近くのところにお願いしたいとの提案がありました。貴重なご意見でした。

ホテルの懐石料理が次々と運ばれ、淡路島の色合いを出したものでした。筆者の舌には少し濃い目の味でした。一年振りに会合は植木先生をはじめ今も現役でいる丸山、内田、秋岡先生などの感心な話、愚痴の数々などに宴会の時間が過ぎました。会の最後に四国から皆勤参加の大西先生が来年もお互いに命を永らえてお目にかかることが出来るように頑張りましょうの励ましの言葉で締めくくりました。

二次会は11階に部屋がありました。紅茶のサービスがありました。夕陽の中に海に向かって並べられたソファーに座って談笑のための部屋のようでした。午後9時を過ぎた海は遠い友が島の影と漆黒の静かな海原でした。そこそこに各自のお部屋に引き上げられました。翌日は午前10時の出発の予定で、それまでは朝食と、身支度などの時間にゆとりがありました。予定では植物館などの淡路島夢舞台に行くつもりでした。雨模様の予想はテレビで知らされて



後列左から 森上さん、奥、西村夫人、梶川夫人、西村、大崎

中列左から 大崎夫人、奥夫人、山本、内田夫人、植木夫人、平野夫人、平野、古谷、大西夫人

前列左から 秋岡、丸山優子、太田、植木、大西、丸山俊郎、内田、梶川

いましたがバスが進むにつれて本降りの模様となり急遽中止をして土産物店の野島スコーラに立ち寄ってその後イタリアンランチのお店に向かいました。4月の第二週末の頃は雨のよく降る時期なのでしょうか、4年前の京都の時も雨の中、東山の栗田山荘から京都ホテルにたどり着いたこと、昨年の静岡の翌日も雨で予定を変更したのを思い出しました。それとも雨男か、雨女がいたのでしょうか？

昼食はイタリアンと知らされていました店は、古い小学校の校舎を改装してレストラン風にしたものでした。建物を囲むように窓際に濃い赤色のベゴニアの鉢が並べられイタリア風の雰囲気を醸し出していました。余りにも鮮やかな色のベゴニアの鉢を後で造花と知られ、聞かなかつた方がよかったですかも知れなかった気分が残り、人生の中でそのようなことがあるものですね、ここでも淡路の特産物、淡路サクラマス、淡路牛ヒレなど、いい味がありました。食事の合間に、現今の医療保険制度の複雑さに悲嘆や驚きの感想を話し合い、生き抜く道を語り合いました。

今年は西暦2019年で平成31年が平成最後の年であると世間の話題になっております。私達38会の集まりのグルメの旅も今回で32回目となりました。報告書を書いている横のテレビで皇位継承のニュースを放映しています。皇位継承によって元号の改元がされるわけで、元号の改元は古代中国の皇帝の時から始まった、と言われるものですが、日本では歴代の天皇の代替わり、慶事、天災、戦乱、などの際にされて来た歴史があります。明治以後は天皇の世代交代の節目に行われるとの取り決めで元号の改名が行われてきました。明治に制定された大日本帝国憲法には天皇の神格化を目指す手段として、万世一系の天皇が統治する者としての第一条がありましたが、終戦後の新憲法には天皇は国民の象徴の存在になりました。しかし国歌は旧態の歌詞のままで過ごされているなど悩ましいことは残されています。今回の改元は平成の時に幾度も発生した災害の地を訪れる旅や、昭和天

皇の時の戦争禍についての贖罪の旅に暮れた天皇とも言われた明仁天皇の生前退位の意思によって行われる譲位（退位）即位の儀式によるものであり、皇室典礼の特例によるものに位置します。儀礼は極めて宗教色を帯びたものであり、国民の象徴天皇の立場を微妙な姿を示す行事であります。改元の儀が歴史的な変革に思うか否かは個人の思惑によるのですが天皇への近接を臨む姿をひと際強く描き出そうとする多くのメディアの姿は、先の大戦中に天皇の神格化を計り国民の眼を逸らし続けた政治と強制され続け国民を欺く手段に使われたメディアの姿を思い出したのは筆者の妄想でしょうか？

そんなこな難しいことを抜きにして、天皇の退位、即位の礼と合わせて改元された令和の時の到来を迎えて、これまでのわが国が戦争もなく平和に過ごせた平成の30余年を歓び、令和の未来の時が平和に続く希望を心に抱いて全国のあちこちの場所に新しい日の出を迎えようと沢山の人の集まりが見られ、恰も新年の朝を迎えるに似た光景であります。しかしながら昭和、平成の時の多くの出来事は終わりではなくそれぞれの課題を残して続いていることを忘れないでいたいものです。イタリアンの店でゆっくりと時を過ごした後、バスに乗り込み神戸への帰路に着き、新神戸駅、三宮駅の前でそれぞれ来年の再会を願って別れました。

今回の出席の方々は、秋岡壽、植木實夫妻
内田実夫妻、大崎洲夫妻、大西正則夫妻
奥日出一夫妻、太田稔、梶川健造夫妻
西村道也夫妻、平野勝彦夫妻、古谷幸夫
丸山俊郎、丸山優子、山本哲也
22名（アイウエオ順）



クラス会だより

庚申仁久会(昭和55年卒)のご報告

文責／本田 学（学29期）

去る平成30年10月6日（土）午後6時から学29期生の同窓会がホテル阪急インターナショナルの「瑞鳥の間」で開催されました。出席会員27名に加えて、故 小橋二郎君の奥様の小橋 光様が、「夫が生前親しくお付き合いさせていただいた同窓生の皆様にお礼を申し上げたい」とのこと、小橋君の遺影を持参して出席されました。

まず全員でこれまでの物故者の冥福を祈って黙祷を捧げたのち、幹事の橋本和明君による乾杯の音頭で宴会に移りました。宴の中ほどで、学校法人大阪医科大学の常務理事である佐野浩一君から、我々が卒業した後の母校の歩みと現状、また今後の展望についてスライドを交えて講演して頂きました。

続いて恒例の出席者ひとり一人による近況報告に移りました。今回は卒業アルバムからとった卒業当時の写真をスライドにして映し出すと



いう趣向で、同窓会出欠の返事が遅かった方から順にステージに上がって頂いて、ご自分の卒業当時の面影を背景にして近況を報告してもらいました。

何人かの同窓生は子供さんやお孫さんたちと一緒に映った微笑ましいスライドを披露してくれました。谷 康平先生は「写真ではなく实物の娘を」と、ご同伴頂いた愛娘の秀真（ほつな）さん（高校1年生）をステージに招いて紹介されました。

楽しいスピーチと歓談のうちに予定された2時間半が過ぎてしまい、次回は2年後の2020年に卒後40周年記念となる同窓会を開催すること、幹事は今回引き続いて中張隆司君にお願いすること、を決めて一次会はお開きとなりました。

二次会には22人が参加し、同ホテル内のバー「ケレス」に移動してグラスを傾けながら思い思いに懐かしい昔の思い出や近況について語り合い、遅くまで楽しい時間を過ごした後に、2年後の再会を約束して散会となりました。

仁泉ひろば

jinsen-park

本学の手術件数

文責／西村 保（学4期）

週刊朝日 MOOK 発刊の「手術数でわかるいい病院」という雑誌があり、今年も去る3月に発売された。

この雑誌は、朝日新聞社が総力をあげて全国の6873病院の手術件数を独自に調査して、全国と地方別にランキングしている。

数年前の「仁泉会ニュース」にこの雑誌から引用した「全国レベルで見た本学の手術件数」と題した私の文章が掲載された。それ以来、私は毎回テーマを変え、現在は「歴史を彩った女性達」と題するシリーズ物を掲載しているが、今回は久しぶりに本学の手術件数とランキングを本誌から抜粋して報告する。

〈肺がん〉

本学は185例で全国ランキング40病院中で34位である。近畿では6位である。

〈食道がん〉

本学は30例で全国ランキング40病院中には入っていない。近畿では10位である。

〈肝胆膵がん〉

本学は185例で全国ランキング40病院中23位である。近畿では5位である。

〈胃がん〉

本学は161例で全国ランキング40病院中13位である。近畿では2位である。

〈大腸がん〉

本学は457例で全国ランキング40病院中3位である。近畿では堂々の1位である。

〈前立腺がん〉

本学は138例で全国ランキング40病院中には入っていないが近畿では8位である。

〈腎がん〉

本学は71例で全国ランキング40病院中には入っていないが近畿では4位である。

〈子宮・卵巣がん〉

本学は202例で全国ランキング40病院中11位である。

位で近畿では3位である。

〈頭頸部がん〉

本学は128例で全国ランキング40病院中29位である。近畿では6位である。

〈乳がん〉

本学は287例で全国ランキング40病院中には入っていないが近畿では5位である。

〈甲状腺がん〉

全国ランキング40病院に入っていない。近畿の記載はない。

〈がん放射線治療〉

本学は905例で近畿では3位である。全国ランキン40病院は記載されていない。

〈がん薬物治療〉

本学は83例で近畿では6位である。全国ランキン40病院は記載されていない。

〈がん以外の手術〉

〈心臓手術〉

本学は237例で近畿では12位である。全国ランキン40病院は記載されていない。

〈脳動脈瘤手術〉

本学は72例で全国ランキング40病院中には入っていない。近畿では13位である。

〈眼の手術〉

本学は495例で全国ランキング40病院中には入っていない。近畿では10位である。

〈難聴治療〉

本学は84例で近畿では11位である。全国ランキン40病院は記載されていない。

手術には外科医以外に、それを支えるパラメディカルスタッフが必須不可欠である。

〈麻酔医〉

本学は34名で記載されている大阪の9病院中ではトップである。

〈病理医〉

本学は11名で記載されている大阪の4病院中ではトップである。

放射線科医についての記載はない。

がん診療連携拠点病院でセカンドオピニオンの相談実績は274件で記載されている大阪8病院中2位である。

以上、通覧すると本学は私立の医科大学としてはなかなか「エエセンイッテイル」やないかというのが正直な感想である。特に消化器系、婦人科系の手術は全国的であるのは喜ばしい。手術件数が多いのがイコールいい病院とは云えないが手術件数が多い病院は治癒実績も良好であるのは事実である。従って、特にがん手術のような命を賭けた手術を受けるのであるから、それに選ばれるのは治癒実績のある病院、つまり、いい病院と云うことになるのである。

仁泉ひろば

jinsen-park

がん年齢 (バレット食道腺がんの1症例)

文責／島田真久（学14期、78歳）

日本は、人口の4人に1人が65歳以上という超高齢者社会を迎えて、厚労省の統計によれば今や一生の内2人に1人が「がん」なると言う時代である。年間100万人が毎年がんになっているそうだ。がん年齢はいつごろかといえば、何歳ごろという明確な定義はないわけであるが、がんの最大危険因子は加齢ということになるので、一般には、50～60歳以降ということになろうかと思われる。加齢により、約30億ある遺伝子の内、年間8～10個ぐらいがDNAのコピー時にエラーを起こし遺伝子変異として蓄積されてやがて「がん化」すると言う。従って、細胞分裂回数の多い上皮細胞ががんになり易いことになる。私の場合は、母親が、49歳の時、胆管がんで、父親は79歳の時候頭がんで亡くなっているから、何れも上皮細胞からの「がん」と言うことになる。

私自身ががん年齢に達したと感じたのは、2年前、定期検診の時に便の潜血反応が陽性に出たので、7年前に同じ潜血反応が陽性で大腸ファイバーで2個のポリープが見つかりそのまま内視鏡で除去術を受けたので、またかと思い、大腸ファイバー検査でいずれも3mm以下の3



個のポリープが見つかり、そのうちの一番小さな1mmのポリープが初期がんであったがすでにEMRで摘出したあとなので事なきを得た時である。

平成31年3月15日毎年定期検診を依頼している医院で、大腸ファイバー、胃カメラ検査を受けた。3年前からバレット食道の指摘を受けていたが、今回はその内の1時方向に一部小さな出血痕が見つかりその部の生検となる。それまで、胸焼けとか、瞭下のときに物が胸の辺りにつつかれるような症状は全くなかったので、安心していたが、26日、I先生より「えらい物が見つかってしました。生検より腺がんでした」とのメールを受け取る。「初期の物と思われますが、これより先は大きな病院での検査をお勧めします」とのことであった。一般には、食道がんの95%は、食道の大部分を覆っている扁平上皮由来のものであり、バレット食道から腺がんになるのは2%以下と言われているが、がんになった本人にとっては、「がんは、統計や確率でかたづく問題ではないなあ」とつくづく思った。

27日に母校消化器内科への紹介状をもらい、28日に受診、直ちにリンパ節転移の有無を調べるために食道の造影CTと胃カメラ検査を受ける。転移はないようであるとのことで、4月17日入院。18日に内視鏡的粘膜下層剥離術(ESD)の予定で、入院は1週間と決まる。

4月17日（水）、入院第1日目、晴れ。ESDを

予定通り明日1時頃より開始で3時ごろには終わりますと言われる。今回のがんの進行状態について伺うと、バレット腺ガンは内視鏡的には浅いように見えても深い場合もあるので、がん細胞が粘膜内にとどまっているステージ0では無く、粘膜固有層にも進出している可能性のあるステージ1のことであった。

4月18日(木)、ESD術当日、晴れ、体温36.3℃。洗面後、起床時に高血圧薬とタケキップ20mg 1錠を服用し以後は絶飲状態。術前の点滴開始、ソルデム3A 500ml+カルバゾクロム50mg+トランサミン10% 1A、生食100ml+タケプロン30mg。消化器内視鏡センターへ移動後、術前に際して前額部に脳波の電極を付けられる。静脈麻酔による術中の睡眠の深さを測定するためと思われる。お陰で間も無く意識がなくなり、周りがざわつくのに気がつくとすべてが終わっていた。術後の点滴、ソルデム3A 500ml+生食100ml+タケプロン30mg。病棟に帰ると、家族が見舞いにきていた。予定より15分ほど早く終わり、ESDだけだと40分ほどであったとのこと。1cmほどの病巣は少し広めに噴門部の粘膜下固有層を1時の方向を中心に約半周除去しましたとの話を聞く。喉から食道にかけて違和感を感じる。胃カメラの挿入による圧迫の影響と思われる。

4月19日(金)、術後1日目、晴れ後曇り、体温36.8℃。点滴ソルデム3A 500ml+カルバゾクロム50mg+トランサミン10% 1A、(生食100ml+タケプロン30mg)×2。午前中に、食道や肺に異常がないかの胸部X線単純撮影と昨日の剥離部が止血しているか確認のため、再度、胃カメラ検査を受ける。結果は完全に止血していましたとのこと。起床時の高血圧薬の服用以外は、絶飲、絶食。胃カメラ施行後50分で飲水は可能となる。血液検査では、絶食しているので、総蛋白6.4g/dL(昨日は、6.9)、アルブミン3.6g/dL(昨日は、4.1)と正直に少し下がっており、また、昨日の粘膜剥離により血清アミラーゼ値が154U/Lと少し上昇(昨日は、63U/L)、剥離術による炎症のためCRPが

0.61mg/dL(昨日は、0.09mg/dL)、好中球77.2%(昨日は、53.3%)、好中球数5473/μL(昨日1967/μL)と少し上昇した以外は目立った変化は無かった。主治医より、後遺症として、一ヶ月後ぐらいに傷が治る過程で周囲の組織を引っ張ることにより術部が狭窄し、飲食時物がつかえる感じがある場合がある。狭窄が強い場合は、バルーンを挿入して膨らますことになる。また、半年に1回ほど転移の有無の確認のため造影CT検査が必要であるとの話しを聞く。退院後の5月24日に、再度、胃カメラ検査と剥離した切片の病理組織結果説明のための受診予定が組まれた。

4月20日(土)、術後2日目、晴れ、体温36.4℃。点滴(ソルデム3A 500ml+生食100ml+タケプロン30mg)×2。絶食2.5日後、初めての昼食の食事は、潰瘍食(軟)で、5分粥。絶食後の便はまだ出ず。夕方、孫達が見舞いに来る。京都芸大2年生の孫娘は、入院後、1日ごとに草花の絵をハガキに描いて持ってきていた。たとえば、入院後1日目、コンクリートの間から顔を出す草花に魅力を感じます。草花の生命力を見ると、私も頑張らないと思います。じいじいも頑張れ!!!。退院まであと5日、柚子の花言葉は健康。いつまでも健康で頑張ってください、など。家族の見舞い直前に、やっと点滴の抜管があり、身軽になる。初めてシャワーを浴びる。夕食も潰瘍食(軟)で、喉の違和感はあるが痛みとか狭窄感はない。夜に難産のすえ、親指大の排便あり。黒色便が出るものと思ったが、意外と色は普通で、ナースを呼んで確認もらう。術者がよほど上手だったと見えて意外と、粘膜剥離による出血はほとんどなかった様である。

4月21日(日)、術後3日目、薄曇り、体温36.3℃。朝食、昼食は相変わらず、潰瘍食(軟)で、5分粥。午後に再度家族が見舞いにやってきた。京都は、気温が37℃でまさに夏日とのことである。昨日と同様1階のドトールで皆はコーヒーとケーキを注文したが、私は水だけ。夕食は、また、潰瘍食(軟)で、5分粥。気がつけば、喉から食道にかけての違和感は全く消失してい

た。Drより、順調に回復している様なので予定通り、水曜日が退院予定となりますとの話あり。

4月22日(月)、術後4日目、薄曇り、体温36.5℃。早朝、採血あり。朝食は、潰瘍食で軟の文字が消えていたが、全粥。時間があったので昨日にファミマで購入しておいた洗剤を使って洗濯をする。洗剤は入院患者に便利な様に1回分が小袋に分かれしており大変使いやすかった。午前中、暇があるので久しぶりに仁泉会事務局を訪ね、来月に帝国ホテルで行われる36会(同窓会)の参加者と観光組(私の担当で海遊館に行こうと計画している)の確認をする。ついでに、「入院中のことを記事にしているので、仁泉会ニュースに投稿した時はよろしく頼む」と依頼する。主治医より、早朝の血液検査のデータを受け取る。特に、異常はないようである。少し上昇していた血清アミラーゼ値は、48U/Lと正常値に戻っていた。CRPは、1.08mg/dLと少し高値であったが、好中球は、56.9%、好中球数は、2282/μLと正常値に戻っていたので、CRPは、少し遅れて反応している様である。昼食は、潰瘍食で、全粥。外気温は、27.6℃で外を少し散歩しても汗ばみ、もう夏である。夕方、初めての入浴となり、久しぶりにさっぱりとする。夕食も潰瘍食で、全粥。主治医の訪問があり、再出血は、一週間以内に起こることが多いので、入院が一週間になりましたとの説明を受ける。3年前の腰部脊柱管狭窄症術後の時は、リハビリに頑張りましたが、今回は腹が減って頑張りようがないと言うと、食事は消化管疾患のリハビリになりますとのこと。普通食に戻るのは退院の日らしい。つまり、明日も全粥と言うことになる。骨格筋は鍛えられるが、平滑筋や腺上皮は鍛えられないのが辛い。

4月23日(火)、術後5日目、晴れ後曇り、体温36.6℃。朝食は、潰瘍食。潰瘍食(軟)にしても、単なる潰瘍食にしても共通しているのは、いずれも塩分控えめで、味が大変薄い。老健こもれびの高齢者用の検食もかなり味が薄いので、検食簿にいつも味が薄いと書くが高齢者用ということをいつも却下されている。しか

し、潰瘍食はそれ以上に薄い。だからと言って、塩を足したり、振り掛けをかけたり、醤油をかけたり出来ないのが辛いところ。食のリハビリという事で我慢・我慢。午前中にDrの訪問を受ける。明日早朝にもう一度採血してその結果を見て10時頃に退院となる予定。昼食は、潰瘍食も全粥。

4月24日(水)、術後6日目、入院して丁度7日目、雨、早朝に採血あり。朝食は普通食、ただし潰瘍食。午前中に丁度3年前に腰部脊柱管狭窄症の手術をうけた定期受診日であったので、X線単純撮影とCT撮影後受診、術部の椎体間が完全に化骨化しているのを確認され、治療は完結しましたとのお墨付きを頂いて、退院となる。入院中の副産物として、体重が5kg減、禁酒と超薄味の減塩食により、それまで、150~160/90mmHgであった血圧が、117~120/70mmHgと別人のようになっていた。「令和」の元号を来週に迎える平成最後の週であった。

一ヶ月後

5月24日(金)、快晴、真夏日。退院後、初受診日。退院後、普通食に戻り、ラーメンも食するようになったが、血圧もあつと言ふ間に、もとに戻ってしまった。恐るべし塩分。9:00より、内視鏡を受けた後、消化器内科にて、今までの結果を聞く。剥離した後は完全に修復されており完治していたが、病理組織で一部、低未分化癌が見つかっており、リンパ組織への転移のリスクがある状態なので、追加治療を考えたほうが良いとのコメントで、次回、消化器外科受診の予定を6月15日(土)とした。

つづく



仁泉ひろば

jinsen-park

平成30年度大阪医科大学 バスケットボール部OB・OG会総会 瀧谷公隆（学38期）医学教育 センター専門教授就任をお祝いして 文責／宮崎信一郎（学52期）

去る平成31年2月23日（土）に平成30年度大阪医科大学バスケットボール部OB・OG会総会が午後7時からホテルグランヴィア大阪で開催されました。学生9名を含めて37名の参加となりました。また、今回は平成30年7月1日付けて本学医学教育センター専門教授（副センター長）に就任された瀧谷公隆（学38期）先生のお祝い会を兼ねての開催となりました。

革島康雄会長（学20期）のご挨拶で総会の開会となりました。北野直先生（学45期）の司会で、最初に庶務関連の報告が行われ、榮樂周子先生（学45期）が平成29年度会計を報告されました。次に北野直先生が、OB・OG会活動として、第5回シニアバスケットボール大



第27回医師バスケットボール大会

会（平成30年3月24、25日）を開催し、無事に主幹としての責務を果たしたこと、および第27回医師バスケットボール大会（福岡県、11月23、24日）に参加したことを報告されました。さらに現役学生の新キャプテンから現状のバスケットボール部活動が報告され、男子部からは中川知軌君（3回生）、女子部からは広川千英さん（3回生）が、それぞれ新メンバーおよび今年度の活動を報告されました。

総会の終了後に、吉林圭一先生（学49期）の司会で瀧谷公隆医学教育センター専門教授就任のお祝い会兼懇親会が開催されました。瀧谷公隆先生は挨拶の中で、昨今の医学教育を取り巻く諸問題点や、「新カリキュラム」や研究マインド醸成の試みとしての「学生研究」等、本学が取り組んでいる医学教育の特徴を述べられ、さらには本学だけではなく、学校法人：大阪医科大学として厳しい医療界を生き抜いていくことを熱く語られました。また、瀧谷先生の前後の学年の先生方（安田稔人（学37期）、瀧川直秀（学42期））から、学生時代の懐かしいエピソードや武勇伝を交えたお祝いスピーチ

が述べられ、瀧谷先生の専門教授就任に花を添えられました。例年のごとく束の間ではありますが学生時代に戻った錯覚に陥りながら楽しいひと時を過ごすことができました。次回は令和2年2月29日（土）に同じホテルグランヴィア大阪に再会することを約束して、午後9時過ぎにお開きとなりましたが、有志一同で北新地への二次会に移り、会は深夜におよんだことは言うまでもありません。

OB・OG会を盛り上げて、現役学生を応援するためにも、バスケットボール部OB・OGの先生には、是非とも総会および懇親会にご出席していただきますよう、よろしくお願い申し上げます。次回の開催は、令和2年2月29日（土）に予定しております。



第5回シニアバスケットボール大会の懇親会

参加者（敬称略）

学20期：革島康雄、学24期：岡田茂樹
学28期：松井昭彦・中田英二、
学29期：本田学、学30期：永田昌敬
学33期：安田英煥、学34期：東川雅彦
学37期：安田稔人・南龍也・安田恵美
学38期：瀧谷公隆、学40期：横田淳司
学41期：久野友子、学42期：瀧川直秀
学44期：劉長勲・山口和男、学45期：芥川寛
北野直・榮樂周子
菅敬治（平成8年金沢医科大学卒）
学49期：吉林圭一、学50期：片嶋隆
三木義仁、学52期：宮崎信一郎、学54期：飯田剛
学65期：柏木秀基、学66期：山村昌大
本学3年生：東祐介・久島祥弘・中川知軌
糠谷我輝・広川千英・松原令美・西口鈴
谷口ひかる・高木一沙

平成11年会 同窓会のお知らせ

標題の通り、9月7日に同窓会を開催することとなりました。
平成11年卒業、もしくは平成5年入学の方にご参加いただけます。

日時：令和元年9月7日（土）午後6時から午後9時（同じホテルで2次会も予約しています）
場所：ホテル阪急インターナショナル（最寄り駅 阪急梅田駅、大阪メトロ中崎町駅）
その他の情報はホームページ <https://oosakaikaikadaigaku.jimdo.com/> をご確認ください。
まだ出欠のお返事をいただいている方は、以下のQRコードからお早めにアンケートにご回答ください。

幹事：佐山皓一、茨木利彦、神吉佐智子
お問合せ先：toshi720022002@gmail.com

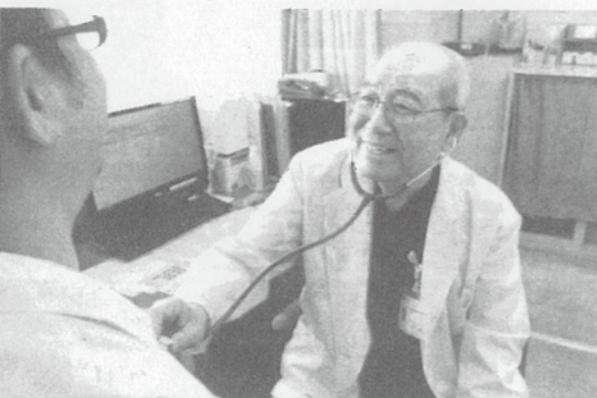


新聞切抜

旭日双光章
元県医師会理事
大隈義彦さん 83
尼崎市内で総合病院を経
營する傍ら、1994年か
ら10年間、県医師会理事と

して県民の健康増進に尽力
してきた。「私を育て支え
てくれた先輩や仲間に感謝
したい」と受章を喜ぶ。
父親が経営する診療所を
継いだのは35歳の時。後に
入院患者を受け入れる急性
期病院に改築し、リハビリ
テーション病院も設立し

地域包括ケアを推進



83歳になった今も、患者の診療
を続ける大隈さん（尼崎市で）

中学を卒業したのは戦後まもない頃
で、経済的な理由から進学できない級友
も多かった。「人のおかげで学ぶことが
でき、一人前にしてもらつた。必ず恩返
しをする」と誓つた。

阪神・淡路大震災では次々と訪れる患
者に処置をした。その経験から尼崎JR
脱線事故では「人手はなんぼあつてもえ
え」とすぐ医師らを派遣した。リハビリ
テーション医療の普及や産業保健推進に
限り、診療を続けたい」（中川恵）

旭日双光章
大隈
義彦さん（83）
(元県医師会理事)
尼崎市

医療は人への恩返し



★★★2019年5月21日(火)付読売新聞(上)、神戸新聞(下)に大隈義彦先生(学9期)の記事が掲載されました。★★★

阪神大震災では、昼夜を問わず負傷者の治療に携わり、重症患者を積極的に受け入れた。2005年のJR福知山線脱線事故の発生

直後、テレビで惨状を知り、出動要請を待たずに、現場に医師や看護師を派遣した。

医師会理事時代は、診療報酬の適正化を訴えてリハビリテーション医療の普及を図り、産業保健や地域包括ケアなどを推進、地域医療の充実、社会福祉の向上にも貢献した。

（中略）

「患者の心を癒やす病院であつてほしい」という父の教えを守り、83になつた今も患者の診療を続ける。患者から「私が死ぬまで生きとつてよ」と言われることも。

「患者は家族のような存在。診察で会えるのが楽し

みなんです。まだまだ続けますよ」とほほえんだ。

新聞切抜

ちょっと拝見 304

大阪府・医療法人 東和会 第一東和会病院

〒569-0081 大阪府高槻市宮野町2-17
<http://www.towa-med.or.jp/>

- 会長：飯田 稔
- 設立：1982年
- 病床数：243床（一般急性期病床235床、HCU6床、ICU2床）
- 診療科：内科、循環器内科、消化器内科、血液内科、糖尿病・内分泌内科、ペインクリニック内科、外科、消化器外科、整形外科、脳神経外科、乳腺外科、形成外科、小児科、婦人科、女性泌尿器科、泌尿器科、眼科、耳鼻咽喉科、リハビリテーション科、放射線科、麻酔科



トップレベルの技術と心ある開かれた医療で地域に貢献

広い患者受け入れ窗口

大阪と京都のほぼ中間に位置する大阪府高槻市の医療法人東和会 第一東和会病院（飯田 稔会長、田中源重院長・243床＝一般急性期病床235床、HCU6床、ICU2床）は、琵琶湖から大阪湾に注ぐ淀川の西側中流域にあたる高槻市を中心とした、島本町、茨木市、摂津市などの地域をカバーする二次救急指定病院として、地域の中核病院の一角を担う地域医療支援病院だ。

診療科目は20を超え、外来は一般外来の他、特殊（専門）外来として、呼吸器内科、神経内科、肝胆膵内科、リウマチ膠原病内科、腫瘍内科、皮膚科、物忘れ外来、脳血管専門外来、胆石外来、ヘルニア外来、肛門外来、禁煙外来と同院の患者受け入れ窗口の広さは折り紙付きだ。

また、内視鏡外科、脳卒中、膝スポーツ関節鏡、女性泌尿器科・ウロギネコロジー、内視鏡、透析、健診の7つのセンターを設置し、幅広くクオリティーの高い専門診療を推進している。

年間の新入院患者数は約7,200人、平均在院日数は8.7日、病床利用率は約90%、1日平均外来患者数

は約700人、年間救急車搬入件数は約4,000件、年間手術実績は5,500件以上（内、全身麻酔手術が2,500件を超える）となっている。特に地域の急性期医療を担う同院では、最新機器を揃えた6室の手術室とカテーテル治療室からなる手術センターを完備して24時間手術に対応していて、病床当たりの手術入院数は、高槻市、茨木市、島本町、摂津市を含む三島二次医療圏で最多の実績を誇る。

★★★2019年4月10日発行の大塚薬報NO.744に第一東和会病院（会長 学18期 飯田 稔先生、院長 学31期 田中源重先生）の記事が掲載されました。★★★

冊子切抜

在宅医療・介護講演会 手話通訳付 参加費無料

最期まで住み慣れた地域で暮らし続けるために ～在宅医療・在宅看取りについて～

「在宅医療ってどんなことをするの?」「家で最期を迎えるにはどうしたらいいの?」など様々な疑問について講師の先生にお話しいただきます。

日時 12月7日(金) 14:00~16:00

場所 区役所5階 会議室

内容 第一部 秀社会クリニック院長 熊野 宏二先生
第二部 淀川区医師会訪問看護ステーション管理者 植田 友美先生

定員 150名(当日先着順)

問い合わせ 保健福祉課(健康づくり)2階22番 6308-9882

講師紹介

- 熊野 宏二先生
大阪医科大学卒業(医学博士) 一般社団法人大阪市淀川区医師会理事
- 植田 友美先生
平成8年看護師免許取得
淀川区訪問看護ステーション連絡会会長

僕たち淀川区住みます芸人の「職人」も参加します!

★★★2018年11月発行の「よどマガNO.055」に熊野宏二先生(学39期)の記事が掲載されました。★★★

役員交代

〔京都地区評議員〕

前評議員 加藤一博先生(学12期)



新評議員 寺村和久先生(学37期)

〔学部30期評議員〕

前評議員 福田泰樹先生



新評議員 豊田昌夫先生

〔摂津市支部長〕

前支部長 黒本成人先生(学22期)



新支部長 細川真哉先生(学31期)

新聞切抜

ひょうごの病院

73 原泌尿器科病院

高度な治療を目指す

院長 原章二(1993年大阪医科大卒、97年神戸大病院泌尿器科、2002年兵庫県立尼崎病院泌尿器科、09年原泌尿器科病院長／専門分野＝尿路悪性腫瘍、日本泌尿器科学会認定医・指導医)

電話番号 078-371-1203

URL <http://www.harahospital.jp/>

開院 1971年 病床数 42床 医師数 男性5人

主な診療科 泌尿器科、腎臓内科

得意な診療 結石＝体外衝撃波結石破碎術509件、経尿道的尿管結石破碎術348件、経尿道的膀胱結石破碎術56件、経皮的腎碎石術23件▽膀胱がん＝経尿道的膀胱腫瘍切除術76件

※2018年実績

診療機能の特色 尿路治療、結石治療、透析治療に特化した病院として長い経験と高い実績を誇る。

泌尿器の悪性疾患に対しては、最新の医学的根拠に基づき、全身麻酔下の手術や内視鏡手術などに取り組んできた。

結石治療では、体外から衝撃波を当てて短時間で結石を碎く機器を備え、尿路内視鏡を尿道から入れレーザーなどで結石を碎く「経尿道的尿管結石破碎術」、体外から腎臓に小さな穴をあけ結石を碎く「経皮的腎碎石術」を推進。19年4月に手術室をリニューアルし、内視鏡イメージング画像の精度を高めた「4Kシステム」を導入し、結石の位置や大きさ、数、患者の全身状態、そして患者の社会的背景に応じた治療法を提案する。また、若手医師教育のための教育監視システムを整備し、未来の尿路内視鏡医師の育成にも力を入れていく。

開院当初から人工透析を実施。電子カルテのデータにも照らしながら、透析中の状態をチェックする中央監視システムを導入している。

病院の理念と強み 患者と共に病気について考える、真摯な医療を信条とする。

専門病院として45年以上にわたる伝統と新しい技術を融合させながら、先端の医療を目指す。具体的には尿路内視鏡を駆使し、痛みなど体への影響を小さくする「低侵襲」を心掛けるなど、患者の生活の質(QOL)の維持向上に努める。

今後も尿路内視鏡を軸に専門性を磨き、地域に信頼される、期待される病院であり続ける。

★★★2019年5月11日(土)付け神戸新聞に原章二先生(学42期)の記事が掲載されました。★★★



まんが38

壁トン失敗例

かぜにポン太ック（学31期）



本部だより 会員訃報

次の会員が亡くなられました。
慎んでご冥福をお祈り致します。

事務局編集係

高医18期 田中洋一先生

平成29年1月27日ご逝去（92歳）。
昭和24年卒。
寝屋川市にて内科を開業されました。

高医20期 石井 奏先生

平成30年12月7日肺炎の為ご逝去（90歳）。
昭和26年卒。
国立京都病院麻酔科部長、中央手術部部長、
国立療養所比良病院院長、武田病院理事、山
鳥病院理事をお務めになられ、地域医療に尽
力されました。平成18年秋の叙勲にて瑞宝中
綬章を受章されました。

ご遺族 長男 和人様

学部7期 山口清三先生

平成30年10月22日急性心筋梗塞の為ご逝去
(88歳)。昭和33年卒。
昭和29年に京都薬科大学を卒業されました。
母校卒業後、大阪日生病院にてインターんを
され、翌年大阪大学微生物病研究所附属病院
内科に入局されました。昭和38年より大阪成
人病センター内視鏡室での勤務を経て、昭和
46年2月に京都市にて山口内科医院をご開業
になり、平成18年10月に閉院されるまでのな
がきに亘り、地域医療に貢献されました。

ご遺族 妻 千代子様

学部11期 廣谷幸一先生

平成30年12月25日胃がんの為ご逝去(82歳)。
昭和37年卒。
卒業後、和歌山日赤病院内科、大阪労災病院
小児科での勤務を経て、南河内郡河南町に
廣谷医院を開設され、地域医療の為に尽力さ
れておられました。

ご遺族 妻 喜美子様

編集後記

今月号には、母校入学式での模様、ご挨拶を
掲載しました。入学式が執り行われた4月3日
はまだ平成でしたが、5月1日より年号が令和
に変わりました。令和時代初の新入生諸君が立
派な医療人に育ってゆかれることを期待いたし
ます。

5月26日の仁泉会総会において、役員改選が
おこなわれ、同日の臨時理事会で安藤嗣彦先生
(学20期)が新理事長に選出されました。就任
ご挨拶が3ページに掲載されています。安藤先
生はながらく副理事長をおつとめになり、河野

前理事長先生が進められた、母校から離れた地
区をふくめた各支部活動の再編成、活性化もサ
ポートしてこられました。引き続き、仁泉会の
活性化に指導力を發揮してくださるものと考え
ております。

令和になり、仁泉会も新体制となりましたが
仁泉会ニュースは変わらず、母校、各支部、ク
ラス会などの情報を先生方に伝えてまいります。
皆様方からのご投稿が頼りですので、ぜひ
ご協力、ご支援をお願いいたします。

(治)

編集部より

会費納入のお願い

年会費

令和元年度 10,000円
平成30年度 10,000円
平成29年度 10,000円

納入のご協力をよろしくお願い致します。

事務局 会計係

原稿募集のお知らせ

仁泉会ニュースの原稿を募集しております。日々の診療
で感じられた事、研究報告、趣味のお話やクラス会や支
部会のご報告なんでも結構です。
ご投稿お待ちしております。

●50巻5号（令和元年9月1日発行）

締切 令和元年7月末日

●50巻6号（令和元年11月1日発行）

締切 令和元年9月末日

●送付先：仁泉会事務局 〒569-8686 高槻市大学町2-7

E-mail : jimu@jinsenkai.net FAX : 072-682-6636

メディア掲載・書籍発行の際は 編集部にお知らせください

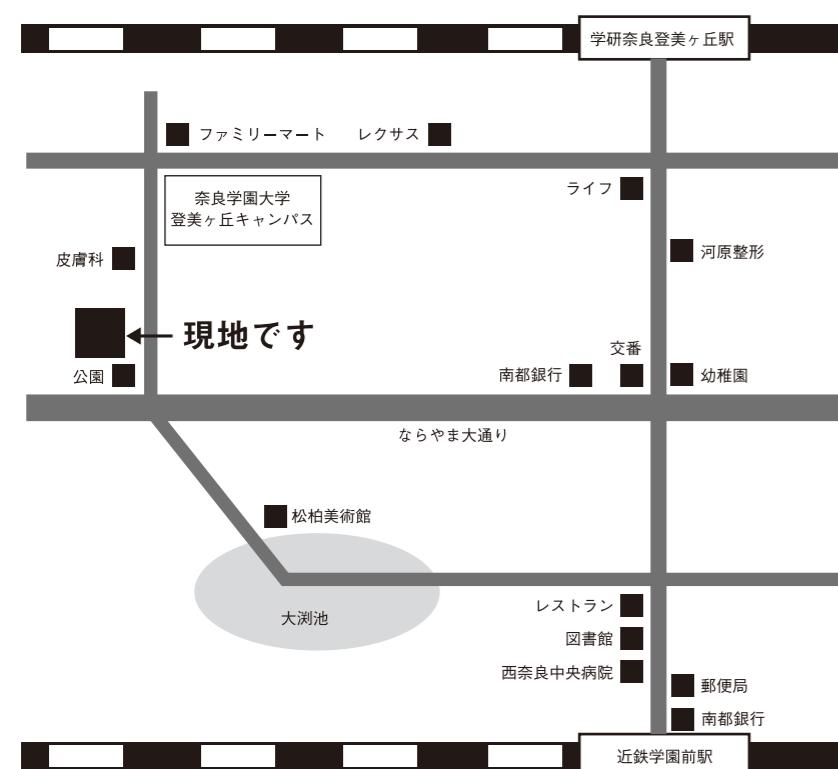
テレビ、ラジオ、新聞などのメディアにご掲載になられた会員諸先生方がおられましたら
掲載された原本を同封のうえ、事務局までお送りください。（自薦・他薦は問いません）

支部会・クラス会開催にあたって

支部会・クラス会開催にあたり、ご案内発送や出欠の集計等を仁泉会事務局にて
お手伝いさせていただきます。お気軽にご相談ください。

仁泉会事務局 TEL / 072-682-6166 FAX / 072-682-6636
e-mail / jimu@jinsenkai.net

クリニックのテナント募集



- ◆ 場所
奈良市西登美ヶ丘2-1-28
近鉄学園前駅から車で5~7分
学研奈良登美ヶ丘駅から3~5分
- ◆ 建物
鉄筋コンクリート造2階建
床面積: 77.49坪
1階 - 38.95坪 2階 - 38.54坪
- ◆ 4月末まで消化器内科診療中

賃料、保証金、1階のみ
2階のみ等委細相談に応じます
詳しくはお電話にて。
お問い合わせ先
仁泉会事務局
Tel 072-682-6166

クリニックビルのテナントを募集します

平成29年4月オープン！

開業したその日から病院連携が約束されている好立地物件です
 ◆ 場所 大阪府門真市島頭4-1-1
 ◆ 募集科目 小児科、耳鼻咽喉科、皮膚科
 ◆ 面積 2階1区画 約30~40坪(約132m²)
 ◆ 敷金 無 ◆ 保証金 家賃3ヶ月分
 ※ 1F 薬局・眼科、2F 歯科、3F 婦人科 各階盛業中!

至近100mにある社会医療法人蒼生病院は平成29年7月に新築竣工しました。内科(消化器・循環器・神経・内分)・整形外科・外科・泌尿器科を標榜し、新たに透析センターを開設しました。外来患者数は約8,500人/月 延べ来院する病床150床の救急指定病院です。また、老健蒼の里も同じ法人で運営していて密な連携をとっています。
 ◎ 臨床検査室…血液検査(1時間で結果判明)・生理検査・エコー検査
 ◎ X線検査室…CT(64)・MRI(1.5T)・マンモ(読影返信可)・TV一般・骨密度測定

連絡先 〒571-0025 門真市大字横地596
 蒼生病院 事務部 北山善夫
 Tel. 072-885-1711 080-3035-5403
 e-mail jimu@sousei-hp.jp



院長募集

医療法人分院開院のため

診療所: 奈良県生駒市南田原町1039
 給与: 独立採算予定(応相談)

★ 現在地にて無床診療所として15年間の診療実績

敷地内: 小児科・歯科・調剤薬局

駐車場 20台以上

設備: MRI、X-線装置、心電計

電子カルテ等すでに装備済み

2階 「通所」・「介護予防通所」リハビリ

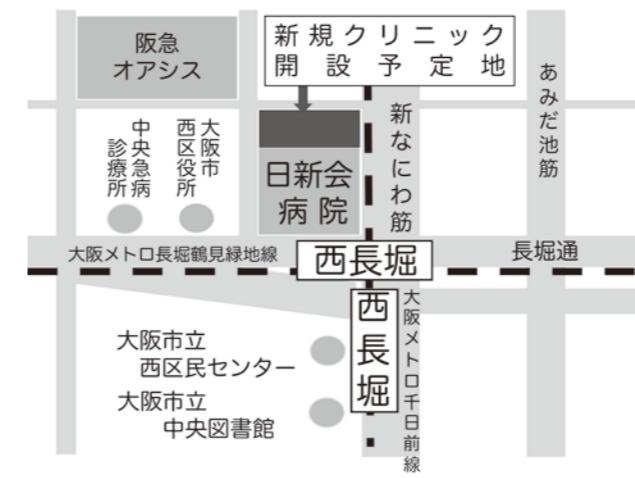


詳しくはお電話にて。
 お問い合わせ先
 仁泉会事務局

072-682-6166

新規開業 テナント募集

- ★ 2020年4月オープン予定<現在ビル建設中>
- ★ 場所: 大阪市西区新町4丁目1番
- ★ 坪単価: 16000円(相談)



クリニックビルのテナントを募集いたします

* 心療内科・精神科

1階(診療所: 96平米) + 4階(多目的室)

現在6階建てビル建設中

(日新会病院に隣接)

大阪メトロ西長堀駅4C出口スグ
 (千日前線および長堀鶴見緑地線)
 長堀通/新たなにわ筋鰯座橋交差点北西角
 ⇒ 阪神高速西長堀出入口スグ

開業をお考えの心療内科・精神科の先生方
 お気軽にお問い合わせ下さい。

詳しくはお電話にて。

お問い合わせ先

仁泉会事務局 072-682-6166



地元で 50年

薬袋・診察券・カルテなどの
医療印刷

タツミ印刷株式会社
お気軽にご相談下さい。

池田・高槻
tel: 072-761-8434

ハードルをジャンプ!!

医療ビル テナント募集

- ◆場所 大阪市北区中津1丁目11-6
- ◆坪単価 15,000円(相談) ◆保証金(相談)
- ◆共益費 30,000円



クリニックビルのテナントを募集いたします

- ★整形外科・耳鼻科・泌尿器科・美容整形
皮膚科・小児科
- ★3Fエリア【90坪】
- ◆内装美装(自由に改装可)

3F 直通エレベーター有
1F ガレージ有
1F 内科盛業中

★地下鉄中津駅前 好立地条件一等地
★地下鉄中津駅すぐ人口密

開業をお考えの先生方、
お気軽にお問い合わせ下さい。

詳しくはお電話にて。
お問い合わせ先
仁泉会事務局 ☎ 072-682-6166
小山 ☎ 090-1480-5866

開業支援ドットコム

開業をお考えの先生方是非ご相談ください！

- ★ご開業場所の選定・調査 内装・空調等のご相談も承ります。
- ★ご開業時の税理士等のご紹介(弁護士・社労士・司法書士 etc)
- ご開業融資のご相談も承ります。各行政への対応可能な有資格者もご紹介
- ★ご開業後の経営・運営のご相談
- ★医療機器・材料等のメーカーとの交渉
医業優先の煩わしい交渉事を一手に引き受けます。

- ◆ご開業時・ご開業後の様々なご相談事に親切・丁寧にご対応致します。
- ◆ご開業をお考えなら下記まで一度ご相談下さい。

お問い合わせ先
開業支援ドットコム株式会社 担当: 宮崎 090-2705-9997

医療ビル テナント募集

- ◆場所: 大阪市浪速区難波中2丁目3-3
- ◆坪単価 12,000円 ◆保証金 家賃の10ヶ月分(要相談)
- *家賃は共益費込となっております。



クリニックビルのテナントを募集いたします

- ★心療内科・泌尿器科・眼科・耳鼻科等に最適。
- ★3Fエリア【約40坪】になります。
- ◆内装美装(そのままお使い頂けます。)

1F・2F
消化器内科・肛門外科・内科・外科
4F
皮膚科・美容外科

5F
レディースクリニック
*各階盛業中
★大阪難波駅徒歩すぐという好立地条件
開業をお考えの先生方、
お気軽にお問い合わせ下さい。
詳しくはお電話にて。
お問い合わせ先
仁泉会事務局
☎ 072-682-6166